

令和元年度

教育に関する事務の管理及び執行の状況の
点検及び評価の結果に関する報告書

(平成 30 年度施策・実施事業分)

令和元年 12 月

宇陀市教育委員会

はじめに

宇陀市教育委員会は、教育行政の充実を図るとともに、市民への説明責任を果たすことを目的として、平成30年度に執行した教育委員会の主な事務事業を宇陀市教育大綱に基づく基本方針の項目毎に分類し、目標の達成状況及び進捗状況について宇陀市教育行政点検評価支援員の意見を踏まえながら点検・評価を行い、本報告書をまとめました。

○地方教育行政の組織及び運営に関する法律〔抜粋〕

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務(前条第一項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務(同条第四項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。))を含む。)の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

宇陀市教育委員会

教育長 福田 裕光
委員 岡本 憲明
委員 巽 礼子
委員 吉川 壽一
委員 峯畑 忠郎

1 施策・事業点検及び評価の実施概要

宇陀市教育委員会は、「宇陀市教育大綱」及び年度ごとの「学校教育の指導方針」、「生涯学習の振興指針」並びに「人権教育についての基本方針」等に基づき、社会環境や財政状況に弾力的に対応した施策・事業を遂行しています。

その具体的な取組に関して目標達成状況等を踏まえた点検・評価を行いました。

今回の点検・評価の対象は平成 30 年度に実施したうちの主な施策・事務事業です。

2 宇陀市教育行政点検評価支援員

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第 26 条第 2 項に規定する教育に関し学識経験を有する者の知見の活用については、教育委員会自らが点検・評価をした結果について学識経験者 2 人に点検評価支援員を委嘱し、教育面での効率性・有効性の観点から改善点などについてご意見をいただきました。

施策・事業を見直すうえで、点検評価支援員の市民の視点に考慮した指摘を総合的かつ客観的に捉え、また、真摯に受け止め、職員の意識改革につなげ新たな進展をします。

■支援員の氏名

西岡 保千代 氏（宇陀市在住）

北森 基之 氏（宇陀市在住）

■点検評価支援員と教育委員会事務局職員による会議開催

令和元年 9 月 4 日（水） 午前 9 時～午後 5 時

〔教育委員会活動・学校教育等の概略説明と質疑応答、点検評価支援員からの総括的な意見〕

3 教育委員会の主な運営・活動状況

総合教育会議において、宇陀市の目指すべき教育を「宇陀市教育大綱」としてまとめ、この大綱に基づく 4 つの基本目標とそれらを推進するための 5 つの基本方針に沿った課題に、平成 28 年度から 4 年を目途に取り組んでいます。

平成 30 年度も、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第 1 条の 4 並びに第 14 条及び第 21 条に基づき、次に掲げる教育に関する事務を管理し、執行いたしました。

- ・教育委員会会議
- ・総合教育会議
- ・教育方針及び教育計画の策定
- ・教育に係る調査及び統計
- ・学校その他の教育機関の設置、管理及び廃止
- ・事務局及び教育機関の職員の人事
- ・児童生徒の就学
- ・学校の組織編制、教育課程、学習指導
- ・教科書その他の教材の取扱い
- ・事務局及び教育機関の職員の服務及び研修
- ・学校施設及び設備の整備
- ・教職員に対する指導助言
- ・学校保健
- ・学校給食
- ・生涯学習の振興に係る施設の企画及び調整
- ・社会教育の基本計画及び総合調整
- ・社会教育に関する施設の設置及び管理
- ・社会教育団体の指導育成
- ・家庭教育、青少年教育、成人教育及び公民館事業
- ・文化及び芸能の振興
- ・スポーツ・レクリエーションの指導奨励
- ・文化財の保護、活用及び啓発
- ・文化財の指定、調査、研究、記録及び資料の作成 等

◆総合教育会議の開催

総合教育会議は、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第1条の4に基づき、2回開催されました。

■平成30年度第1回宇陀市総合教育会議（平成30年8月2日）

- ・安心安全な教育環境の整備（登下校の安全確保）について
- ・国際化に対応するための教育について（英語教育）
- ・プログラミング教育について
- ・学校等の適正配置と就学前・小・中・高の連携について
- ・図書館の有効活用について
- ・給食センターの建替えについて

■平成30年度第2回宇陀市総合教育会議（平成31年2月22日）

- ・学校教育の現状と課題について
- ・読書活動の推進について

◆教育委員会会議の開催

教育委員会会議は、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第 14 条及び「宇陀市教育委員会会議規則」に基づき、平成 30 年度は定例会 12 回と臨時会 2 回、合計 14 回の会議を開催しました。

教育委員会会議は原則公開しています。平成 30 年度の傍聴者は 16 名でした。

◆教育委員会審議案件等の実績

教育委員会会議では「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」及び「宇陀市教育長に対する事務委任規則」の規定に基づき、種々の案件について十分な議論、審議を行いました。

さらに、各担当課から所管する事務について詳細な報告や協議を行うことで、教育委員会と事務局が同一の施策の方針のもとで、一層事業が充実、推進されたと考えています。

<平成 30 年度の審議案件>

■4 月定例教育委員会（4 月 24 日）

- ・宇陀市教育委員会学校事務ワーキンググループ実施要綱の制定について
- ・宇陀市公民館管理運営規則の一部改正について
- ・宇陀市学力向上放課後支援事業要綱の制定について

■5 月定例教育委員会（5 月 30 日）

- ・宇陀市学校訪問実施要綱の一部改正について
- ・宇陀市中学校運動部活動指導員設置要綱の制定について
- ・宇陀市公民館使用料の減免に関する要綱の一部改正について
- ・平成 30 年度宇陀市教科用図書選定委員会委員の任命並びに平成 30 年度小学校教科用図書（「特別の教科道徳」以外）、中学校道徳教科用図書の選定にかかる諮問について
- ・平成 30 年度宇陀市教科用図書選定委員会調査研究員の任命について
- ・宇陀市教育支援委員会委員及び調査員の委嘱について

■6 月定例教育委員会（6 月 27 日）

- ・宇陀市学校給食食物アレルギー対応検討委員会設置要綱の制定について

■7 月定例教育委員会（7 月 30 日）

- ・宇陀市中学校運動部活動指導員設置要綱の一部改正について
- ・平成 30 年度宇陀市教育行政点検評価支援員の選任について
- ・宇陀市立学校給食センター運営協議会委員の委嘱について
- ・宇陀市公民館活動自主グループの登録に関する要綱の一部改正について

- 8月臨時教育委員会（8月27日）
 - ・平成30年度小学校教科用図書（「特別の教科道徳」以外）、中学校道徳教科用図書の採択について
- 8月定例教育委員会（8月27日）
 - ・宇陀市いじめ防止推進協議会等条例の制定について
 - ・宇陀市教育委員会後援等名義に関する規定の制定について
- 9月臨時教育委員会（9月7日）
 - 審議案件なし、協議事項のみ
- 9月定例教育委員会（9月27日）
 - ・宇陀市学校ステップアップ訪問実施要項の制定について
- 10月定例教育委員会（10月31日）
 - 審議案件なし、報告事項のみ
- 11月定例教育委員会（11月28日）
 - 審議案件なし、協議・報告事項のみ
- 12月定例教育委員会（12月12日）
 - 審議案件なし、協議・報告事項のみ
- 1月定例教育委員会（1月24日）
 - ・宇陀市学校規模適正化検討委員会条例の制定について
- 2月定例教育委員会（2月27日）
 - 審議案件なし、報告事項のみ
- 3月定例教育委員会（3月29日）
 - ・宇陀市立学校の管理運営に関する規則の一部改正について
 - ・宇陀市ぬくもり修学奨励資金支給要綱の一部改正について
 - ・宇陀市特別支援教育就学奨励費支給要綱の制定について
 - ・宇陀市文化会館活動自主グループの登録等に関する要綱の制定及び関連規定等の改正について
 - ・宇陀市文化会館条例施行規則の一部改正について
 - ・宇陀市文化会館使用料の減免に関する要綱の一部改正について
 - ・宇陀市通級指導教室設置要領の一部改正について
 - ・スポーツ推進委員の解嘱について

◆教育委員会会議以外の活動

[学校訪問]

学校長等から、今年度の学校経営の重点項目、教育課程の特色、創意工夫の点などについて説明を受け、その後、「学校教育法施行規則」及び「宇陀市学校管理運営規則」に基づく次に示す各種表簿を点検しました。

＜各種表簿＞

学校日誌・出勤簿・旅行命令簿・教育計画書（教育課程）
指導要録・健康診断に関する表簿・薬品管理簿等

学校施設・設備の視察・点検を行い、児童生徒等の学習・授業の様子を参観しました。

その後、改善点について意見交換を行うとともに教育の課題を探り、学校長等に対し指導・助言を行いました。

また、入学式、卒業式、体育大会等学校行事への参加を通じて、児童生徒の活動状況を参観しました。

奈良県教育委員会が定める「学校教育の指導方針」ならびに「宇陀市学校教育の指導方針」に添った教育がなされているか、教育委員、教育長、指導主事及び事務局職員、さらに県教育委員会事務局教職員課の管理主事も加わり、次に示す観点で実態を調査しました。

＜実態把握の観点＞

県及び市の学校教育に関する方針に添った重点施策
学校の経営方針・教育課程（教育方針と重点指導）
特別支援教育・道徳・人権教育・生徒指導・研究主題
職員研修・児童生徒の安全確保と危機管理・評価の実施と公開
家庭や地域との連携等

平成30年度は、5月から6月にかけて小学校6校、中学校4校、幼稚園3園、こども園2園、保育所3所を訪問しました。

◇菟田野小学校
大字陀小学校 平成30年5月24日

◇榛原東小学校
榛原中学校
大字陀中学校 平成30年5月29日

◇室生小学校
室生中学校 平成30年5月30日

◇榛原小学校
菟田野中学校
榛原西小学校 平成30年5月31日

◇榛原幼稚園
榛原東幼稚園 平成 30 年 6 月 4 日

◇榛原西幼稚園
室生こども園 平成 30 年 6 月 5 日

◇しらゆり保育園
榛原北保育園 平成 30 年 6 月 6 日

◇大宇陀こども園
菟田野保育所 平成 30 年 6 月 7 日

[宇陀市学校ステップアップ訪問]

学校は、教育活動その他の学校運営の状況について評価を行い、その結果に基づき学校運営の改善を図るため必要な措置を講ずることにより、その教育水準の向上に努めなければならないとされています。

そこで、宇陀市教育委員会は教育水準の保証と向上を図るため、学校評価を含めた学校組織マネジメントのPDCAプロセスの実施局面である時期において、学校を訪問し具体的取組状況を確認することにより各学校の主體的な形成的評価を促すとともに、学校改善のために必要な支援・助言を行うためステップアップ訪問を実施しました。

平成 30 年度の訪問は市内小学校 6 校、中学校 4 校でした。

◇榛原西小学校
榛原中学校 平成 30 年 11 月 12 日

◇室生小学校
室生中学校 平成 30 年 11 月 15 日

◇榛原小学校
榛原東小学校 平成 30 年 11 月 20 日

◇菟田野小学校
菟田野中学校 平成 30 年 12 月 3 日

◇大宇陀小学校
大宇陀中学校 平成 30 年 12 月 10 日

[教育委員・教育長研修等]

以下の研修等を通じて、自己研鑽に努めるとともに教育事情調査や教育相談等の日常活動に努めています。

◇奈良県都市教育長協議会 平成 30 年 4 月 16 日 (奈良市)
平成 30 年 7 月 17 日 (奈良市)
平成 30 年 10 月 24 日 (奈良市)
平成 31 年 2 月 26 日 (奈良市)

◇近畿都市教育長協議会定期総会 平成 30 年 4 月 26 日～27 日
(和歌山県和歌山市)
近畿都市教育長協議会研究協議会 平成 30 年 10 月 25 日～26 日
(和歌山県みなべ町)

◇全国都市教育長協議会定期総会並びに研究大会
平成 30 年 5 月 17 日～18 日
(岩手県一関市)

◇奈良県市町村教育委員会連合会会議
平成 30 年 5 月 8 日 (奈良市)

◇奈良県市町村教育委員会研修大会 平成 30 年 11 月 9 日 (香芝市)

4 各施策・事業の取組状況と支援員の意見

各施策・事業点検評価シートは、「宇陀市教育大綱」に沿って、項目ごとに主な施策・事業を点検し、評価した結果です。

シート中の『達成度』『必要性』『有効性』とは、教育委員会が次の基準により判断したものです。

- | | | |
|---|------|----------------------------|
| A | 高い | (概ね期待通りの成果が上がり、目標を達成できた。) |
| B | やや高い | (ほぼ目標を達成したが、改善の余地がある。) |
| C | やや低い | (目標をあまり達成できなかったため、改善を要する。) |
| D | 低い | (目標を達成できなかった。) |

また、『点検評価支援員による総合評価』『今後の方針』については、それぞれの欄外※印にある 5 段階評価で評価しています。

施策・事業の点検・評価 一覧

宇陀市教育大綱に基づく主な施策・事業		自己評価			総合評価
		達成度	必要性	有効性	
1 確かな学力・規範意識・体力の向上					
1	小中学生基礎学力向上事業	B	A	A	2
2	外国語活動指導助手設置事業	A	A	A	2
3	プログラミング教育の導入に伴う調査・研究事業	A	A	A	1
4	教職員の研修事業	A	A	A	1
5	成人式事業	A	A	A	2
2 夢を育む教育環境づくり					
6	教育施設の耐震化(小学校)	A	A	A	5
7	学校給食賄材料購入事業	A	A	A	2
8	給食センター建替えに伴う資料作成事業	C	A	A	2
9	安全・安心メール配信システム運営事業	A	A	A	2
10	宇陀市図書館を使った調べる学習コンクール実施事業	B	A	A	2
11	総合体育館・総合運動場運営事業	B	B	B	2
12	室内温水プール及びテニスコート管理運営事業	B	B	B	2
13	図書館機能充実事業	A	A	B	2
14	図書返却ポスト事業	A	A	A	2
15	働く子育て世代の図書館利用の充実事業	B	A	A	2
16	寄贈資料の管理運営事業	A	A	B	2
3 地域全体で子育てを					
17	ぬくもり修学奨励資金支給事業	A	B	B	2
18	教育相談事業	A	A	A	1
19	教育センター事業(適応指導教室「はばたき」)	A	A	A	1
20	教育センター事業(通級指導教室「ほほえみ」)	A	A	A	1
21	青少年育成支援事業	B	A	A	1
22	子ども活動支援事業	B	A	A	2
23	子どもフェスタ事業	A	A	A	2
4 人権文化の創造					
24	公民館管理運営事業	A	A	A	2
25	各種講座・教室事業	A	A	A	2
26	社会教育推進講座事業	B	A	A	1
27	市美術展事業	B	A	A	2
5 郷土を誇り郷土を愛する人材づくり					
28	文化財保存修理等補助事業	A	A	A	2
29	薬の館管理運営事業	A	A	A	2
30	重要伝統的建造物群保存地区保存事業	A	A	A	2
31	埋蔵文化財発掘調査事業	A	A	A	2
32	街なみ環境整備事業	A	A	A	5
33	史跡宇陀松山城跡保存整備事業	A	A	A	2
34	史跡森野旧薬園保護事業	A	A	A	2
35	国県指定史跡災害復旧事業	A	A	A	2
36	国指定天然記念物等保護再生事業	A	A	A	2
37	小学校水泳教室事業	B	A	A	2
38	水泳教室事業	B	A	A	2
39	宇陀市小学校対抗子ども駅伝大会事業	A	A	A	2
40	大人のための運動教室事業	B	A	A	1
41	宇陀シティマラソン事業	A	A	A	2
42	市民スポーツ大会事業	A	A	A	2
43	近畿高等学校自転車競技大会・ロードレースの部	A	A	A	2

自己評価 「A」高い、「B」やや高い、「C」やや低い、「D」低い

総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

事業名	〈宇陀市教育大綱に基づく主な施策・事業〉 1 確かな学力・規範意識・体力の向上 ・学ぶ意欲の向上、教職員の資質向上、家庭学習の習慣化、主体性の醸成 — 小中学生基礎学力向上事業		所管課	教育総務課		
事業の概要	子どもの学力に関わる諸課題に関する調査・研究を行うと同時に、課題に対応した諸事業(UDAスタンダードの推進)を行う。また、それら諸課題への取組について研究校による先進的取組を支援するとともに、その成果発表会を行い市内全校への普及を図る。					
目標・実績	市内小・中学校の児童生徒の学習意欲・学力・学習習慣の向上を図る。 ・宇陀市学力学習状況調査の実施及び結果分析及び宇陀市生活行動・学習活動調査(学習生活アンケート)の実施及び結果分析 ・市、国の学力学習状況調査の結果からまとめた「UDAスタンダード」(授業改善・家庭学習の習慣化)の推進及び交流 ・宇陀市研究校の指定					
教育委員会 自己評価 の	成果と課題 宇陀市の子ども課題を学力調査、学習生活アンケートにより同一集団の学力及び学習、生活習慣を定量的に把握している。その結果子どもの学力は小学校6年生から中学校3年生にかけて上昇し全国平均に迫っている。また、授業に関するアンケートも改善傾向を示している。家庭での学習時間は変化がない。今後この取組を一層浸透させていくことが重要と考える。					
	達成度	B	必要性	A	有効性	A
	評価理由	教師の授業に関する項目は改善傾向が続いている。家庭学習については全国や県平均よりポイントが低い。学力も全国平均を下回る。		評価理由	子どもたちの自己肯定感を育み、一人一人が自信を持ち、自尊心を培い、生涯にわたって幸せに生きていく力を身につけるために必要。	
				評価理由	子どもたちが夢や意欲を持って学習に取り組み、規範意識や基礎学力向上につなげるために有効と考える。	

※達成度・必要性・有効性は右記から選択してください。「A」高い、「B」やや高い、「C」やや低い、「D」低い

点検評価員からの主な意見	<p>・家庭事情による教育の保障に差があってはならない。すべての子どもたちが自己肯定感を育み、自信を持ち、自尊感情を培い、生涯にわたって幸せに生きていく力を身につけることを目指して、調査結果の分析を行い改善の方向をさらに探っていただきたい。各校それぞれの課題の発見とその解決に向けて、教職員が地域家庭と共に足並みをそろえて、子どもたちに向き合うことが必要である。</p> <p>・宇陀市の子ども課題を学力調査、学習生活アンケート調査により定量的に把握している。学力は、全国平均に迫ってきているが、家庭での学習時間に課題を抱えており、今後の取組となる。家庭学習を含めた主体的な学びに向かう意欲の向上と自己肯定感の醸成を目指して、学校と家庭が信頼でつながり取り組む必要がある。</p>
	点検評価支援員による総合評価 【 2 】

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

今後の方針	<p>〈施策の課題や点検評価員の意見をふまえた方向性〉</p> <p>「UDAスタンダード」をさらに浸透させ、宇陀市のどこの学校で教育を受けても一定の水準の教育を受けられる教育環境を構築する。また、小中学校の連携を推進し、9年間を見通した教育環境を構築する。宇陀市学力学習状況調査及び宇陀市生活行動・学習活動調査(学習生活アンケート)を今後も継続して実施・分析することで、課題を明確にし、具体的な対応策を検討する。</p>
	事業の総合評価 【 2 】

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

事業名	〈宇陀市教育大綱に基づく主な施策・事業〉 1 確かな学力・規範意識・体力の向上 ・学ぶ意欲の向上、教職員の資質向上、家庭学習の習慣化、主体性の醸成 — 外国語活動指導助手設置事業		所管課	教育総務課	
事業の概要	ALT(外国語指導助手)を配置し、市内全小学校の外国語活動の授業で、クラス担任と連携し、小学校3・4年生「Let's Try!」小学校5・6年生「We Can!」等を活用したチームティーチングを行う。小学5、6年生のクラスに対し年間30回、小学3、4年生のクラスに対して年間15回、小学1、2年生のクラスに対し年間10回ALTを派遣した。(外国語活動及び国際理解に関する教育の補助・外国語教材作成の補助) また、幼稚園、こども園、保育所、子育て支援センターに年間各10回訪問し、英語活動を行った。				
目標・実績	外国語活動において、話す、聞くことを中心に外国語に慣れ親しむ活動を通じて、言語や文化について直接的体験を通して、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成し、コミュニケーション能力の素地を養うことを目標としている。 幼児期からネイティブな英語に慣れ親しむことによって英語に対する関心や興味が高まり、英語力の向上につなげていきたい。				
教育自己評価委員会の	成果と課題				
	子どもたちはネイティブな英語に触れることができる授業を体験している。また、ALTの国の生活や行事などを聞くことができ、日本との違いを知り、多様なものの見方や考え方があることに気付くことができる。今後もALTのチームティーチングの仕方を工夫するなど、より効果的な外国語活動の指導につなげていきたい。				
	達成度	A	必要性	A	有効性
	評価理由		評価理由		評価理由
	幼児期からネイティブな英語に慣れ親しむことにより、児童の英語に対する関心・興味が高まり学習への準備効果が期待できる。		令和2年度より実施される「新学習指導要領」へのスムーズな全面实施に向けて、さらに外国語指導の充実が重要となっている。		英語を話す、聞くことへの興味を深め、国際理解の素地を養い、英語学習への環境づくりが期待される。

※達成度・必要性・有効性は右記から選択してください。「A」高い、「B」やや高い、「C」やや低い、「D」低い

点検評価員からの主な意見	<p>・外国語活動が、小学校において教科として実施されることになり、ALTの存在はますます重要となってくる。しかしながら、毎年4月から小学校の新担任とALTとのTTを実施していかなければならない状況は厳しいものがあるといえる。ALTをしっかりと授業で活躍させるための準備も時間的余裕が無いと思われる。小学校で国際理解の素地を養い、英語学習への興味を深め中学校へ進学するように、今以上に中学校との連携を期待する。</p> <p>・宇陀市としてALTを雇用し、市内の小学校や幼稚園、保育所などに定期的に派遣している。学習指導要領の改訂に伴い外国語活動にALTは不可欠である。英語を話すことや聞くことへの興味を深め、英語学習への環境づくりが整備されることが望ましいと考える。</p>	点検評価支援員による総合評価 【 2 】
--------------	--	----------------------

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

今後の方針	<p>〈施策の課題や点検評価員の意見をふまえた方向性〉</p> <p>学習指導要領の改訂により、令和元年度から小学校において外国語(英語)が教科として導入されることから、引き続きALTを配置し、子どもたちがネイティブな英語に親しみながら、英語を話すことや聞くことへの興味関心やコミュニケーション能力を高められる環境を整える。 「English Village」等の取組も継続し、いろいろな国のALTとも触れあえる機会を作り、さらに文化習慣を知り、国際理解にも努めていく。</p>	事業の総合評価 【 2 】
-------	---	---------------

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

事業名	(宇陀市教育大綱に基づく主な施策・事業) 1 確かな学力・規範意識・体力の向上 ・学ぶ意欲の向上、教職員の資質向上、家庭学習の習慣化、主体性の醸成 — プログラミング教育の導入に伴う調査・研究事業				所管課	教育総務課
事業の概要	平成29年3月に告示された新学習指導要領において、情報活用能力が「学習の基盤となる資質・能力」と位置づけられたことにより、令和2年度から小学校において「プログラミング的思考」を育成するため、プログラミング教育が必修化される。 宇陀市としては、令和元年度からの1年前倒しの先行導入に向けて、平成30年度において指導者育成およびモデル校での実践研究を実施する。そのため、必要な教材、通信環境等の準備、整備も行う。					
目標・実績	・プログラミング関連教材、モバイルWi-Fiルーターの整備。 ・ICT活用に関する知識と実践力を有し、市をリーディングしていく教員育成。 ・菟田野小学校をモデル校に指定してプログラミング教育の先行実践を行い、市内他小学校への普及を図る。					
教育自己委員会の評価	成果と課題 ・県教育研究所のICT活用連続講座への教員派遣を行った。 ・菟田野小学校において、全学年において実践を行い、市内各小学校へ公開した。菟田野小学校の実践は、子どもや保護者の評価も高く、内容的にも充実したものであった。そのため、教育研究所の機関誌、教育レポートDVD、奈良テレビなどのメディアを通じて県内に広く周知された。 ・今後、各学校において確実に実践を積み重ねて行くことが重要。					
	達成度	A	必要性	A	有効性	A
	評価理由	菟田野小学校でのモデル校として充実した先行実施を行うことができた。		評価理由	新しく導入されるプログラミング教育の実施については、具体的なモデル及び教材、環境があることが重要。	
			評価理由	既に取り組んでいる小学校があることは、他の小学校の職員にとって、実施に対するハードルを下げることに繋がっており、有効。		

※達成度・必要性・有効性は右記から選択してください。「A」高い、「B」やや高い、「C」やや低い、「D」低い

点検の主な見から	・情報活用能力が「学習の基盤となる資質・能力」と位置づけられたことにより、そのためのプログラミング的思考を育成するため、小学校でICTの活用が迫られている。そのために必要な教材、環境が準備されることになった。今後はその環境をいかに活用して教育効果を上げるかと言うことが教職員に期待される。先行実施の菟田野小学校の事例をしっかりと検証し、市内の小学校がとまどうことなくプログラミング教育を進められることを望む。 ・令和2年度から小学校において「プログラミング的思考」を育成するため、プログラミング教育が必修化される。そのため、平成30年度において、指導者育成及びモデル校として菟田野小学校で先行実践を行い、市内小学校への普及を図っている。必要な教材や通信環境等の準備、整備も行っている。今後も研究と実践を重ね、各学校での積み重ねと工夫が大切になると考える。					
	点検評価支援員による総合評価 【 1 】					

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

今後の方針	(施策の課題や点検評価員の意見をふまえた方向性) 学習指導要領の改訂により、令和2年度より小学校にプログラミング教育が導入されることを受け、先進的に取組を進めてきたが、今後も、宇陀市の教育の重点項目のひとつとして、取組を推進していく。 また、小学校・中学校の連携や県立学校との連携も視野に入れ、宇陀市として、特色のある教育として推進していく。					
	事業の総合評価 【 1 】					

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

事業名	(宇陀市教育大綱に基づく主な施策・事業) 1 確かな学力・規範意識・体力の向上 ・学ぶ意欲の向上、教職員の資質向上、家庭学習の習慣化、主体性の醸成 — 教職員の研修事業		所管課	教育総務課
事業の概要	子どもの学力に関わる諸課題及び特別支援教育、その他今日的な教育課題に関わる職員研修を実施することにより、教職員の資質及び指導力向上を図る。			
目標・実績	宇陀市の教育に関わる独自課題、今日的課題の職員研修を行い、教職員の資質及び指導力向上を図る。 ・宇陀市教育センター研修(12回) ・学力向上推進協議会(UDAスタンダード推進委員会)2回 ・宇陀市特別支援教育コーディネーター研修(3回) ・宇陀市初任者研修(2回) ・プログラミング教育担当者研修(2回)			
教育自己評価 委員会の	成果と課題 実施した研修は参加者のほとんどが「参考になった」「どちらかといえば参考になった」と肯定的に答えていることから、一定の成果があったものとして考えている。今後も「いじめ対応」「人権教育」など重点とする研修と、今日的な教育課題に関する研修をバランス良く実施していきたい。			
	達成度	A	必要性	A
	有効性	A	評価理由	評価理由
	評価理由	アンケートの結果、参加者のほとんどの参加者から肯定的な回答があった。	評価理由	現場の教職員の若返りが進む中、資質及び指導力の向上のために、ニーズに応じた研修を実施する必要性は高い。
			評価理由	宇陀市内の学校の状況や課題に応じた研修を計画しており、また、連続した研修で人材育成を行うため有効である。

※達成度・必要性・有効性は右記から選択してください。「A」高い、「B」やや高い、「C」やや低い、「D」低い

点検評価員の主な意見から	・宇陀市独自の教育センターとしてその機能が遺憾なく発揮され、様々な講座が教職員に有効に提供されている。受講率も高く教職員の資質向上に寄与している。 ・以前実施されていた教職員全員を対象とした全員研修を行い、宇陀市の教育課題の基本に迫るような取組を考えられたい。またそのような機会を通じて、異校種間の教職員の交流により宇陀市の子どもたちの共通理解ができるのではと考える。 ・宇陀市の教育にかかわる課題や今日的課題の研修を行い、教職員の資質及び指導力の向上を目指して進められている。述べ約400人の参加があり、「参考になった」「どちらかといえば参考になった」と肯定的回答がほとんどである。今後も、現実的な課題やニーズに応じた研修を実施する必要があると考える。
	点検評価支援員による総合評価 【 1 】

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

今後の方針	(施策の課題や点検評価員の意見をふまえた方向性) 教育基本法第9条(研修)で「法律に定める学校の教員は、自己の崇高な使命を深く自覚し、絶えず研究と修養に励み、その職責の遂行に努めなければならない。」と規定されているように、研修は教員の資質及び指導力の向上のためになくてはならないものである。今後も、「不易流行」の理念で教職員のニーズにあった研修を実施する。
	事業の総合評価 【 1 】

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

事業名	〈宇陀市教育大綱に基づく主な施策・事業〉 1 確かな学力・規範意識・体力の向上 ・道徳・規範意識の向上、生活習慣の確立、「夢・志」を育む教育の推進 — 成人式事業			所管課	生涯学習課	
事業の概要	成人式の日には新成人が一堂に会し「成人式」を開催。					
目標・実績	平成31年1月14日(祝)に文化会館において「成人式」を開催した。式典及び記念事業を実施した。対象者284人中211人の参加を得た。					
教育自己評価委員会の	成果と課題 成人の中から実行委員を募集し、17人の実行委員が中心となり、式典及び記念行事の内容について企画、運営がなされた。参加率は74.30%であり、今後も新成人に対して、道徳・規範意識の向上を持てる宇陀市の成人になっていただくことを願って、成人式を行いたいと考える。 ※民法改正により、令和4年4月1日から成人が18歳となり、成人式のあり方について検討が必要					
	達成度	A	必要性	A	有効性	A
	評価理由	評価理由 新成人代表となる実行委員会が中心となり、式典・記念行事を進 行。内容にこだわって開催していることに意義があると考え る。		評価理由 宇陀市においては、成人式として、式典・記念行事を開催しているが、多くの市町村において実施されている事業でもある。日本の文化の一つとして大切な事業である と考える。	評価理由 道徳・規範意識の大切さを新成人に訴えることができるような事業にしたいと考える。	

※達成度・必要性・有効性は右記から選択してください。「A」高い、「B」やや高い、「C」やや低い、「D」低い

点検評価員の見	<ul style="list-style-type: none"> ・新成人の中から実行委員を募集し、17人の実行委員が中心となり、式典及び記念行事の内容について企画、運営がなされ、参加率は74.30%でほぼ4人に3人が参加したという。女子の振り袖姿がめでやかに会場を彩り、式典が式典として、また記念行事は実行委員の意見をまとめたものとして意義のある式となっている。振り袖の着用について議論されることは無くなっているのか、不参加者の中に衣服にこだわらなければならないための欠席はいないのか、一度検討されたい。 ・18歳成人に伴う成人式のあり方については、色々考慮されることを望む。 ・成人式は、人生の一つの節目とも言える大きな儀式である。成人が主体となって、企画を練り、儀式を進行していくことの意義は大きい。参加率も7割を越えており、今後も、新成人に対して、夢と希望を育み、規範意識の向上を図る成人式を継続していく必要があると考える。
	点検評価支援員による総合評価 【 2 】

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

今後の方針	<p>〈施策の課題や点検評価員の意見をふまえた方向性〉</p> <p>式典及び記念行事を通して、成人としての自覚、社会人の出発点としての規範意識を高めていく大切な機会である。新成人で結成する実行委員と共に企画、運営をし、今後も心に残る意義ある成人式が挙行できるよう図っていききたい。</p>
	事業の総合評価 【 2 】

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

事業名	〈宇陀市教育大綱に基づく主な施策・事業〉 2 夢を育む教育環境づくり ・安全・安心な教育環境の整備 ー 教育施設の耐震化(小学校)				所管課	教育総務課
事業の概要	榛原東小学校渡廊下耐震化工事					
目標・実績	学校施設は、児童が1日の大半を過ごす活動の場であり安全性の確保は重要課題である。また非常災害時には地域住民の応急的な避難場所としての役割を果たすことから、施設の耐震化を進めるとともに経年による損耗、機能低下の復旧措置を図る。					
教育委員会 自己評価	成果と課題 平成24年度に作成した宇陀市学校施設等耐震化計画に基づき、国が示す平成27年度予算(市予算では平成28年度)による耐震化完了に向け、計画的に耐震化を進め学校施設の耐震化を完了した。平成30年度に、国土交通省の基準を満たすため、榛原東小学校渡廊下の耐震化を実施し、市内小中学校の耐震化を完了した。					
	達成度	A	必要性	A	有効性	A
	評価理由	文部科学省の基準ではなく国土交通省の基準となる榛原東小学校の渡廊下の耐震化は、平成29年度で設計、平成30年度で工事を実施した。		学校施設は児童生徒が1日の大半を過ごす施設であり、また、地域の避難所としての機能を有しているため、耐震基準を満たし経年による施設の老朽に対する機能復旧は必要。	学校施設の改修により教育環境の改善及び避難所としての安全な施設にすることで安全・安心なまちづくりができる。	

※達成度・必要性・有効性は右記から選択してください。「A」高い、「B」やや高い、「C」やや低い、「D」低い

点検の評価員から	・学校施設の耐震化が終了したが、施設は老朽化するものであるから、定期的な点検改修は今後とも必要である。 ・平成30年度に国土交通省の基準を満たすため、榛原東小学校渡廊下の耐震化を実施し、市内小中学校の耐震化を完了した。今後は、「窓ガラスや吊り天井、照明」の点検が課題となっており、引き続き整備点検及び改修が継続することになる。	点検評価支援員による総合評価 【 5 】
----------	--	----------------------

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

今後の方針	〈施策の課題や点検評価員の意見をふまえた方向性〉 耐震化については完了したが、学校施設が老朽化してきているため、今後、補修・改修等は継続して行う必要はある。施設の長寿命化に向けて、学校施設長寿命化計画を策定し、計画的・効率的に施設の維持管理を行っていく。	事業の総合評価 【 5 】
-------	--	---------------

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

事業名	〈宇陀市教育大綱に基づく主な施策・事業〉 2 夢を育む教育環境づくり ・安全・安心な教育環境の整備 ー 学校給食賄材材料購入事業	所管課	学校給食センター
-----	---	-----	----------

事業の概要	<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちに「安全・安心でおいしい給食」を提供するため、国産物資、国内加工、無添加食材を基本として購入する。特に地場産物を中心とした旬の食材を積極的に購入する。また、県給食会との連携により、積極的な情報収集を行い食材の安全確認に努める。 アレルギー対応については、より安心で安全な対応を心がける。 まち・ひと・しごと創生総合戦略に、「学校給食地産地消促進事業」として数値目標を掲げ、市単独予算措置により地産地消を推進する。
-------	---

目標・実績	<ul style="list-style-type: none"> 使用食材の安全衛生管理を徹底する。安全管理の方法として次の内容を実施している。①食材の産地表示の義務化 ②加工食品は、原材料及び産地確認 ③学校給食衛生管理基準に基づく食品検査を複数回実施 給食でのアレルギー対応として、献立の成分内容(アレルゲン)を明確にして、アレルギー対応(除去食)対象の保護者及び希望者に情報を提供する。また、平成30年8月には「宇陀市学校給食食物アレルギー対応検討委員会」を設置し、9月より幼稚園でもアレルギー対応(除去食)を開始する。 地場産物(市内・県内産)の積極的な購入により、地産地消を推進する。 【まち・ひと・しごと創生総合戦略「学校給食地産地消促進事業」の数値目標】 学校給食地産地消率(市内産野菜・きのこ類の重量比率) H27(基準値):10.55% ⇒ H31(目標値):35.00%(H30に20%より引上) H30(実績値):32.45% *学校給食費 食材購入費 :103,465,941円 地方創生総合事業費 食材購入費 :1,499,089円
-------	---

教育委員会 自己評価	成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> 地場産物(市内、県内産)を使用した献立による「安全・安心でおいしい給食」を提供することを心がけ、また、市内産の野菜等を積極的に購入し、地産地消の推進を図っている。 献立などに関する保護者の声を聞く場として、給食試食会を4校3園で9回実施し、242名の参加をいただいた。保護者の意見等は献立などに活かしている。また、食育授業を3校で5回開催、2校の施設見学(65名)及び2校の職場体験(3名)の受け入れなどにより、給食に対する関心や理解を深め、食育の推進に努めている。
---------------	-------	--

達成度	A	必要性	A	有効性	A
評価理由	「安全・安心でおいしい給食」を提供することができた。 地産地消率については、目標値に及ばなかったが、概ね順調に推進している。	評価理由	衛生管理を徹底するため、産地表示の義務化や関連書類の提出を求めることにより、使用食材の安全を確認できる。 「宇陀市学校給食食物アレルギー対応検討委員会」の設置により、組織として取り組むことができる。	評価理由	保護者の意見等を、献立に活かしている。 成分内容等の情報共有により、効果的なアレルギー対応ができる。幼稚園でのアレルギー対応を開始する。 食育により、食に対する関心や理解が深められる。

※達成度・必要性・有効性は右記から選択してください。「A」高い、「B」やや高い、「C」やや低い、「D」低い

点検評価員の主な意見から	<ul style="list-style-type: none"> ・成長期の子どもに9年間(幼稚園を含むと12年間)提供される給食は、「安全・安心」であることは必須である。宇陀市の給食はその上においしく子どもたちが喜んで食べるための創意工夫が至る所に見られる。学校現場では他の市町村から転勤してきた職員がその内容の豊かさに驚く光景が毎年4月に見られる。 ・アレルギーへの対応も保護者と連携して適切に行われている。 ・家庭でも少しずつ「安全・安心でおいしい食材」への関心が高まる中、学校給食でも地場産物を中心にした旬の食材を積極的にとり入れ、目標値を大きくあげている。また、「宇陀市学校給食食物アレルギー対応検討委員会」を教育委員会事務局内に設置し、幼稚園でもアレルギー対応(除去食)を実施するなど組織的に進めている。さらなる工夫改善と安全管理の徹底を望みたい。 <p style="text-align: right;">点検評価支援員による総合評価 【 2 】</p>
--------------	--

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

今後の方針	〈施策の課題や点検評価員の意見をふまえた方向性〉 <ul style="list-style-type: none"> ・使用食材・施設等の安全衛生管理を徹底し、市単独補助金を有効活用した地産地消の推進を図りながら、「安全・安心でおいしい給食」を今後も提供する。 ・アレルギー対応については、「宇陀市学校給食食物アレルギー対応検討委員会」を軸として、保護者・学校への正確な情報提供をするとともに、確実な除去食の提供に努める。 ・給食試食会や、食に対する関心や理解を深めるための食育授業・施設見学・職場体験などを通して、食育の推進に努める。 <p style="text-align: right;">事業の総合評価 【 2 】</p>
-------	---

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

事業名	<宇陀市教育大綱に基づく主な施策・事業> 2 夢を育む教育環境づくり ・安全・安心な教育環境の整備 — 給食センター建替えに伴う資料作成事業	所管課	学校給食センター
-----	---	-----	----------

事業の概要	・現在の学校給食センターは、築後44年が経過しており老朽化が著しく、施設の改修工事を適時行ないながら衛生管理に努めている。 ・子どもたちに「安全・安心でおいしい給食」を提供するため、宇陀市として給食センターの建替えについて具体的に進めていく。
-------	--

目標・実績	【給食センター建替えに伴う資料作成事業】 ・平成30年度事業として、6月補正予算で委託料の予算化を図り、委託業者を決定し作業に着手。年度内に、建設予定地並びに施設概要の決定を考えていたが、候補地の選定に時間を要し、繰越事業となった。
-------	--

成果と課題	・年度内に建設予定地並びに施設概要の決定を考えていたが、建設予定地の決定はデリケートな内容であり、性急に事運び関係者の感情を損ねると、今後の事業の進展に影響を及ぼすことも考えらるるので、慎重に進めるには繰越も仕方ないと判断した。
-------	--

教育委員会 自己評価 の	達成度	C	必要性	A	有効性	A
	評価理由		評価理由		評価理由	
	年度内に建設予定地を決定できなかった。		給食センターの建替えは、施設の内容等を考えると、早急に推進していかなければならない。		子どもたちに、「安全・安心でおいしい給食」を提供するには、給食センター建設は有効である。	

※達成度・必要性・有効性は右記から選択してください。「A」高い、「B」やや高い、「C」やや低い、「D」低い

点検の評価	・現状の給食センターの老朽した設備の中で、日々2,000食を超える「安全・安心でおいしい給食」の提供に努力されている実情が改善されるためにも給食センターの建替えは緊急を要するものである。 ・建設予定地の決定が速やかに行われることを望む。 ・「衛生管理」が行き届いた給食を子どもたちに提供するためには、老朽化の著しい給食センターの建替えが必要である。30年度は、建て替えに伴う資料作成事業が進められている。建設予定地を決めることは、慎重に、なおかつ迅速に推進することが求められる。事業の着実な推進を望みたい。
	点検評価支援員による総合評価 【 2 】

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

今後の方針	<施策の課題や点検評価員の意見をふまえた方向性> ・候補地の選定に時間を要し、繰越事業になったが、資料作成事業の成果内容を踏まえて、建設予定地を決定していきたい。 ・想定より遅延しているが、確実に進めていきたい。
	事業の総合評価 【 2 】

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

事業名	〈宇陀市教育大綱に基づく主な施策・事業〉 2 夢を育む教育環境づくり ・安全・安心な教育環境の整備 — 安全・安心メール配信システム運営事業	所管課	教育総務課			
事業の概要	保育所・幼稚園・こども園・小学校・中学校・学童保育室・子育て支援センターの保護者を対象として、学校等からの様々な連絡や緊急時の安否確認等、双方向の連絡等が行えるメール配信システム。 このシステムの特徴は、一方的に送信するだけでなく、回答機能を装備していることにより、各種アンケートや会議の出欠等、迅速かつ的確な集計等が行えることである。 また、気象庁と連携していることから気象警報発令時には即座に気象メールが配信され、地震等の緊急時にも安否確認が自動的に発信される。					
目標・実績	保育所・幼稚園・こども園・小学校・中学校・学童保育室・子育て支援センターの保護者及び教職員、教育委員会事務局職員が登録しており、メール配信システムを構築することによって、緊急時の情報伝達が一斉にできることに加え、情報を共有することができる。それが子どもたちの生活の安全・安心につながる。 9割を超える登録があり、学校行事、気象警報時、給食に関する緊急連絡、感染症対策等の連絡手段としての備えとなり、また効果を発揮した。					
教育自己評価委員会の	成果と課題 幼稚園・保育所・小学校・中学校・子育て支援センター・学童保育室の職員及び児童生徒の保護者並びに教育委員会事務局職員等の大多数が登録している。 これまでは年度末に学年の切り替え作業で登録済みの全児童生徒分を消去しなければならなかったが、在校生については継続して利用できるように運用方法を見直したことから、登録率を下げることなく保護者等の手続きも簡略化することができた。					
	達成度	A	必要性	A	有効性	A
	評価理由 システムの利便性が利用者に評価され、登録率は増加している。		評価理由 必要な情報を、正確かつ迅速に登録者へ伝達することができる。		評価理由 このシステムを活用することにより、正確かつ迅速な情報伝達が行えることから、緊急時の活用も含めて有効な情報伝達手段のひとつである。	

※達成度・必要性・有効性は右記から選択してください。「A」高い、「B」やや高い、「C」やや低い、「D」低い

点検の主な意見から	<ul style="list-style-type: none"> ・一方的に送信するだけでなく、回答機能を装備していることにより、各種アンケートや会議の出欠等、迅速かつ的確な集計等が行えるという機能の活用がより望まれる。 ・緊急時の迅速な情報伝達に非常に有効であり、現在においては必要不可欠といっても過言ではないと思われるが、昨今の異常気象に伴う長期停電や基地局のダメージ等により使用不能な事態が起きたときに、果たして子どもたちの安全を確保する情報伝達はどのようになるのか、未曾有の危機への対応も考えなければならない。 ・警報や災害、学校行事、給食や感染症に関する緊急連絡などにより、子どもたちの生活の安全・安心につながっている。運用を見直し、在校生については、継続して利用できるように改善したことから、保護者手続きも簡略化して、登録率も9割を越えている。継続していく必要がある。 <p style="text-align: right;">点検評価支援員による総合評価 【 2 】</p>
-----------	--

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

今後の方針	〈施策の課題や点検評価員の意見をふまえた方向性〉 引き続き、メール配信システムの運用を継続し、緊急時や不審者情報等の適切な情報発信に努める。運用上、進級時の再登録を不要にしたため、年度初めから高い登録率を維持することができた。今後も、さらに登録率を維持・向上できるよう、周知していく。
-------	---

事業の総合評価 【 2 】

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

事業名	〈宇陀市教育大綱に基づく主な施策・事業〉 2 夢を育む教育環境づくり ・地域にひらかれた学校づくりの推進、時代に対応する資質、能力の形成 — 宇陀市図書館を使った調べる学習コンクール実施事業		所管課	中央図書館		
事業の概要	市内の小中学校の児童生徒が、学校・公立図書館の資料や自らが観察、実験するなどして得る様々な情報を活用して「調べる学習」を行うことを通じ、「自ら考え、課題を解決する力」を養い、それに伴い図書館の利用が一層促進されることを目指す。					
目標・実績	<ul style="list-style-type: none"> ・「調べる学習」により、主体的に学ぼうとする意欲、自分なりのテーマを追求し「情報を活用する力」を身につける。 ・知的好奇心、語彙力、読解力、思考力の向上を目指す。 					
教育自己評価委員会の	成果と課題					
	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校 3校 13作品、中学校 3校 52作品の応募があった。 ・上位2作品を全国コンクールに出展の結果、2作品が佳作に入賞した。 ・市内全小中学校からの参加を目指し、「調べる学習」の課題に取り上げられることが多いと考えられる理科教科の先生方の研修会(小中学校別)に出向き参加を促したが、思うように参加作品数が伸びなかった。 					
	達成度	B	必要性	A	有効性	A
評価理由	昨年同様、2作品が全国大会佳作入賞を果たした。今後は、市内全小中学校・中学校の参加を目指す。		子どもたちに図書館利用を促すきっかけ作りとなる。		テーマも自由決定であり、子どもたちの主体的な学びの機会を提供できる。	

※達成度・必要性・有効性は右記から選択してください。「A」高い、「B」やや高い、「C」やや低い、「D」低い

点検の評価意見	<ul style="list-style-type: none"> ・「調べる学習」を行うことを通じ、「自ら考え、課題を解決する力」を養い、それに伴い図書館の利用が一層促進されることを目指しての全国コンクールに応募して2年目となった。残念ながら市内全小中学校からの参加には至らなかったが、応募作品が2点佳作に選ばれたのはすばらしいことである。 ・次年度も子どもたちが主体的に調べる学習に取り組むよう小中学校への周知をさらに工夫されたい。 ・市内の校長会や教科主任者会などで説明会を重ね、夏休みの課題として参加を働きかけている。52作品の応募があり、全国大会でも2作品が佳作入賞を果たしている。テーマが自由であり、自由研究の課題との混乱も考えられ、さらにこの事業をどう広げるかが課題となろう。
	点検評価支援員による総合評価 【 2 】

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

今後の方針	<p>〈施策の課題や点検評価員の意見をふまえた方向性〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市内の全ての小中学校の参加を目指し、今後も「調べる学習」についての説明を継続する。 ・教育総務課との連携により、各学校に「調べる学習」についての周知を継続する。
	事業の総合評価 【 2 】

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

事業名	〈宇陀市教育大綱に基づく主な施策・事業〉 2 夢を育む教育環境づくり ・社会教育施設の活用と充実 ー 総合体育館・総合運動場運営事業		所管課	総合体育館
事業の概要	市民のスポーツとレクリエーションの振興を図るとともに健康増進を推進し、体育館・運動場の効率的な管理運営を行い、安全で快適に利用いただけるように努める。			
目標・実績	体育施設の整備充実と健全な管理運営に努めるとともに、利用促進を図る。			
		平成29年度	平成30年度	増減率
	体育館利用者数	47,631 人	48,795 人	102.4%
	グラウンド利用者数	7,601 人	7,728 人	101.7%
	合計	55,232 人	56,523 人	102.3%
教育自己評価委員会の	成果と課題 ・体育施設の整備充実と健全な管理運営に努めた。			
	達成度	B	必要性	B
	有効性	B	評価理由	評価理由
	平成29年度と比較すると利用者は増加した。	大きな大会や集会を行う施設として利用度が高い。	スポーツ振興と体力づくりの施設として、また、イベントや集会等の多目的利用施設として市民からの評価が高い。	

※達成度・必要性・有効性は右記から選択してください。「A」高い、「B」やや高い、「C」やや低い、「D」低い

点検の評価員から	・市において一番大きくて、一度にたくさんの人が集まれる施設として、平成26年度の大規模改修を終えた後十分利用されていると思われる。なかなか厳しいと思われるが、アリーナの冷房を考える必要も今の天候の変化においては必要ではないだろうかと思われる。そうなればさらに大きな大会の会場として、様々なイベントの誘致もしやすくなり、人を呼び活気ある宇陀市の発展にも一翼を担うことが期待できる。 ・市民のスポーツとレクリエーション振興を図り、健康増進を目的として管理運営を行っている。子どもフェスタやランタンなど大きな事業もあり、利用者は前年度より少し増えている。施設の老朽化など課題も多くあるが、利用度は高く、継続が望ましいと考える。	点検評価支援員による総合評価 【 2 】
----------	---	----------------------

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

今後の方針	〈施策の課題や点検評価員の意見をふまえた方向性〉 築後、36年が経過し老朽化が進んでいるため、大規模改修等も視野に入れ、計画的な改修を行い、今後も更に利用者が快適で安全な利用ができるように努めていく。	事業の総合評価 【 2 】
-------	---	---------------

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

事業名	〈宇陀市教育大綱に基づく主な施策・事業〉 2 夢を育む教育環境づくり ・社会教育施設の活用と充実 ー 室内温水プール及びテニスコート管理運営事業			所管課	総合体育館	
事業の概要	市民のスポーツとレクリエーションの振興を図るとともに健康増進を推進し、室内温水プール及びテニスコートの効率的な管理運営を行い、安全で快適に利用いただけるように努める。					
目標・実績	水泳やテニスを通してスポーツ振興と健康増進を図り、効率的な管理運営と利用者の増加を進める。					
		平成29年度	平成30年度	増減率		
	プール利用者数	40,217 人	41,010 人	102.0%		
	テニス利用者数	4,903 人	5,090 人	103.8%		
	合計	45,120 人	46,100 人	102.2%		
教育自己 委員評価 の	成果と課題 ・老朽化した施設設備等の一部を改修した。 ・施設の長寿命化のために、大規模な改修が必要である。 ・小中学校の水泳授業にも使用されている。					
	達成度	B	必要性	B	有効性	B
	評価理由	平成29年度と比較すると利用者は増加した。		評価理由 水泳を通しての健康や体力づくりに利用度が高い。 小中学校の体育の水泳授業にも使用されている。	評価理由 幼児・小学生等の水泳技能向上や市民の健康と体力づくりに貢献している。	

※達成度・必要性・有効性は右記から選択してください。「A」高い、「B」やや高い、「C」やや低い、「D」低い

点検 評価 員 意見 から	・小中学校の体育の水泳実習と、一般の利用者の併用利用が支障なく行われるためにもさらなる工夫が必要と考えられる。 ・プールやテニスコートの利用者合計が45,000人を越えている中、施設を今後長期にわたって運用するためにも、マシン利用室も含め適切な改修が早期に行われることを望む。 ・不特定多数の人が集まって活動している際の、緊急時の対応は職員に徹底するだけでなく、利用者や講座の講師を巻き込んで行う機会を設ける必要がある。
	点検評価支援員による総合評価 【 2 】

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

今後の方針	〈施策の課題や点検評価員の意見をふまえた方向性〉 築後、27年が経過し老朽化が進んでいるため、大規模改修等も視野に入れ、計画的な改修を行い、快適な利用環境の提供に努める。
	事業の総合評価 【 2 】

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

事業名	〈宇陀市教育大綱に基づく主な施策・事業〉 2 夢を育む教育環境づくり ・社会教育施設の活用と充実 ー 図書館機能充実事業	所管課	中央図書館
-----	--	-----	-------

事業の概要	市民の皆さんに“いつでも、どこでも、誰でも”読書を楽しむことができる生涯学習環境をつくることを目指し、図書館機能の充実を図る。 子ども読書活動推進計画の策定を受けて、幼稚園・保育所等及び小・中学校との連携強化を図り、子どもたちに図書館の魅力を発信する。
-------	---

目標・実績	幼稚園・保育所等及び小・中学校連絡会議を年2回開催し、宇陀市の現状と課題を共有するとともに、団体貸出の利用促進を目指す。 市内で活動して下さるボランティアグループとボランティアネットワーク会議を開催し、連携強化を図り子どもたちとの関わりについて情報共有する。 【平成30年度実績】 ・蔵書冊数 143,657冊 利用人数 38,499人 貸出冊数 143,699冊 ・団体貸出 幼稚園保育所等・子育て支援センター団体貸出数…6,750冊 小・中学校団体貸出数…市内 163冊 ・ 市外222冊(東吉野小・御杖小・曾爾小等) ・おすすめ本紹介冊子『この本読んで』…ボランティアネットワーク会議にて協議の上、新たにカラー版として作成。
-------	---

教育自己評価	成果と課題 子どもの読書活動推進計画の策定により、幼稚園・保育所等及び小・中学校連絡会議も定着し、団体貸出の利用促進や学校図書館システムの活用方法等、図書館との連携を深めることができた。また、子どもたちへのアプローチの幅が広がるよう今年度から、図書館職員が小学校へ出向き中休みの時間に空き教室を利用して、子どもたちにブックトークや絵本の読み語りを届ける新たな事業をスタートする事ができた。 「大人のおはなし会」(大人も楽しもうよ絵本・お話)を2回(参加者62人)開催し、生涯学習の一助としての図書館の役割は果たせた。
--------	---

	達成度	A	必要性	A	有効性	B
評価理由	図書館と幼稚園・保育所等及び小・中学校等との連携が軌道に乗ってきたと感じる。さらに連携を深めるよう事業展開を考える。		評価理由 宇陀市の高齢者率も高まる状況であり、今後子どもだけでなく大人を対象としたイベント等の企画や、図書館サービスの提供の仕方について検討する必要がある。 生涯学習情報発信の拠点として、すべての市民に親しみやすい身近な図書館を目指す。		評価理由 図書館に近い利用者とはそうでない利用者ではどうしても利用率に差ができてしまう。インターネット貸出等の利用率をあげることで対応しながら、新たな図書館サービスの提供についても考えたい。	

※達成度・必要性・有効性は右記から選択してください。「A」高い、「B」やや高い、「C」やや低い、「D」低い

点検評価員の主な意見	・カエデの郷ひららに移動して、本館のメンテナンスが行われていた年と比較して、利用者数としてはそれほど増えたとも思われず、場所の問題ではなく、利用者は固定されているように思う。読書・活字に親しむということへの様々な取組が行われるも魅力が伝わらないようなもどかしさを感じる。時代の方向性に惑わされることなく書物から得られる感動をさらに伝える工夫がほしい。 ・幼稚園・保育所及び小・中学校連絡会議を開催して団体貸出の利用を図ったり、ボランティアネットワーク会議で協議して『おすすめ本紹介冊子』を読みやすく工夫改善したり、いきいきサロンで『健康』の本を紹介したりして、アプローチの幅を広げている。今後も継続的な工夫改善を進めたい。
点検評価員による総合評価 【 2 】	

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

今後の方針	〈施策の課題や点検評価員の意見をふまえた方向性〉 ・新規利用者獲得のための方策を検討したい。 ・「生涯学習情報発信の拠点」として、親しみやすい身近な図書館を目指す。
事業の総合評価 【 2 】	

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

事業名	〈宇陀市教育大綱に基づく主な施策・事業〉 2 夢を育む教育環境づくり ・社会教育施設の活用と充実 ー 図書返却ポスト事業	所管課	中央図書館
-----	---	-----	-------

事業の概要	インターネット(携帯電話)予約を受け、それぞれの受取場所(貸出ポイント)への配送サービス及び各地域に設置した返却ポスト、大宇陀図書館や各幼稚園保育所等・小中学校への団体貸出の回送を行う。
-------	---

目標・実績	返却ポストの利用は市民の方々に浸透してきているが、貸出ポイントの利用は一部の方の利用に留まっている現状がある。さらなる利用者の増加を目指す。 平成30年度返却ポスト利用状況 返却冊数 14,462 冊
-------	--

教育委員会 自己評価 の	成果と課題					
	返却ポストの周知はされているが、インターネット予約等の活用には利用者の増加があまり認められない。利用方法を再検討し、貸出ポイントの利用拡大を図る必要がある。					
	達成度	A		必要性	A	
	評価理由	評価理由		有効性	A	
	団体貸出(幼稚園保育所等)の増加は、回送業務があつてこそ対応できるものである。	利用者の利便性向上には、ポストや貸出場所の設置は必要である。		直接来館せずとも図書館サービスを利用できる手段として、図書館の魅力発信に有効な手段と考える。		

※達成度・必要性・有効性は右記から選択してください。「A」高い、「B」やや高い、「C」やや低い、「D」低い

点検評価員からの 主な意見	<ul style="list-style-type: none"> ・直接来館しなくていいシステムは返却しやすいが、貸し出しの増加にも一役買っているといえるのだろうか。返却に行くことが、次の本の借り出しに直接つながっていることも考えられるため、やはり何らかの方法で貸し出しに対する利便性をさらに検討されたい。 ・返却ポストの利用についても、中央図書館が総合センターになり、元に戻ってきている状況にある。団体貸出の利用についても増加している。ポストや貸出場所については定着している。インターネット予約などの活用は現状維持の状況が続いている。地道に利用拡大の工夫を継続したい。
	点検評価支援員による総合評価 【 2 】

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

今後の方針	〈施策の課題や点検評価員の意見をふまえた方向性〉 <ul style="list-style-type: none"> ・サロン文庫の普及を個人貸出の増加に繋げたい。 ・年度初め等に図書館だよりに掲載し、改めてインターネット予約等のサービスについて利用者に周知するなど、地道な広報活動を継続する。
	事業の総合評価 【 2 】

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

事業名	〈宇陀市教育大綱に基づく主な施策・事業〉 2 夢を育む教育環境づくり ・社会教育施設の活用と充実 ー 働く子育て世代の図書館利用の充実事業			所管課	中央図書館	
事業の概要	働く子育て世代と子ども達の図書館利用の充実を図るため、中央図書館の開館時間を8～10月の3か月間、3時間延長を試行実施。 絵本作家による「絵本ライブ」や延長時間を利用してのおはなし会の開催により、親子が共に過ごせるレクリエーションの場を創出する。					
目標・実績	・開館時間延長中の図書館利用者の実態を把握する。 ・親子が共に過ごせる機会を図書館が提供することで、新規図書館利用者の確保及び親世代に幼少期からの読書の持つべき意義を浸透させる。					
教育委員会 自己評価 の	成果と課題 ・開館時間については、延長の声は有るものの、実際の利用は少数にとどまった。次年度実施に向け検討する必要がある。 ・絵本ライブには135名の参加があり、その中でも家族での参加が多くみられた。					
	達成度	B	必要性	A	有効性	A
	評価理由	評価理由		評価理由		
	絵本ライブの企画が定着することで利用者に浸透し、参加者の増加が期待できる。		図書館の新たな魅力発信において、必要と考える。		親子で楽しむ機会の提供の中で、読書の大切さを「家庭に届ける」ために有効である。	

※達成度・必要性・有効性は右記から選択してください。「A」高い、「B」やや高い、「C」やや低い、「D」低い

点検評価員の 主な意見 から	・開館時間の延長については、さらに検討を重ねていただきたい。週に何日かでも閉館時刻を遅らすのであれば、その日の開館時刻も遅らせるという方法を試してみるのも一案ではないか。人員確保もなかなか厳しい現状で、勤務形態を工夫することになると思うが。 ・絵本ライブなど魅力ある図書館のあり方をさらに工夫し、親子で図書館で過ごす楽しさを広めていただきたい。 ・働く子育て世代と子どもたちの図書館利用の充実を図ろうと、開館時間を3時間延長して試行実施したが、実際の利用は少数にとどまっている。延長しても『0人』という日もあったとのことである。『絵本ライブ』には135人の参加があり、親子が共に楽しむ場を創出するなど、工夫改善を進めたい。				
	点検評価支援員による総合評価 【 2 】				

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

今後の方針	〈施策の課題や点検評価員の意見をふまえた方向性〉 ・開館時間延長については、令和2年度以降検討を必要とする。 ・令和元年度は「図書館フェスティバル」として絵本ライブを核に従来からの事業とまとめて3日間の事業として開催した。改良点を見直したうえで「図書館フェスティバル」の継続開催を目指す。				
	事業の総合評価 【 2 】				

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

事業名	〈宇陀市教育大綱に基づく主な施策・事業〉 2 夢を育む教育環境づくり ・社会教育施設の活用と充実 — 寄贈資料の管理運営事業	所管課	中央図書館
-----	---	-----	-------

事業の概要	宇陀市に寄贈された約1万冊の貴重資料を宇陀市立図書館の蔵書として登録し、館内閲覧のみの貴重資料ではあるが、奈良カエデの郷ひらら内に玩槭(がんしゅく)文庫として開室。市立図書館の資料として広く周知する。
-------	--

目標・実績	登録した寄贈資料約1万冊を、奈良カエデの郷ひらら内に玩槭文庫として開室し、寄贈資料を館内閲覧していただく施設整備及び管理運営を奈良カエデの郷ひららに委託した。その結果、奈良カエデの郷ひらら来館者に対し市立図書館の資料として広く周知できた。
-------	---

教育委員会 自己評価 の	成果と課題					
	玩槭文庫創設当初から、資料は奈良カエデの郷ひらら内のみの閲覧利用に限定していたが、基本的に市立図書館の資料であること、また図書館利用者の利便性の向上を考慮して、平成30年度から図書館職員が資料の現物を判断した上で、奈良カエデの郷ひららと中央図書館とを回送し、利用の向上を図っている。					
	達成度	A		必要性	A	
	評価理由		評価理由		有効性	
	玩槭文庫の貴重資料としての魅力からか、県内他館からの問合せを受けることもある。		寄贈された書籍は適切に管理運用しなければならない。		市外だけでなく市内の利用者に対しても、資料の有効活用を開始できた。	

※達成度・必要性・有効性は右記から選択してください。「A」高い、「B」やや高い、「C」やや低い、「D」低い

点検の 評価 員 意 見 から	<ul style="list-style-type: none"> ・本は人の目に触れて活用されてこそ価値が高まると考える。せっかくの寄贈本をしっかりと閲覧しやすい方向に持って行っていただきたい。 ・宇陀市に寄贈された貴重な資料を蔵書として登録し、広く周知を図っている。希望者には奈良カエデの郷ひららから図書館に搬出して閲覧できるようにするなど工夫に努めている。今後も、資料が有効に活用できるよう方策を考え、改善を進めたい。
	点検評価支援員による総合評価 【 2 】

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

今後の方針	〈施策の課題や点検評価員の意見をふまえた方向性〉 資料の有効利用を最優先に考え、資料の個々の状態に沿った利用方法を可能とし、利用の拡大を図る。
	事業の総合評価 【 2 】

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

事業名	〈宇陀市教育大綱に基づく主な施策・事業〉 3 地域全体で子育てを ・家庭の教育力の向上支援 — ぬくもり修学奨励資金支給事業		所管課	教育総務課						
事業の概要	修学困難な生徒に対して修学奨励を図るため、高等学校、大学等の入学支度金として修学奨励資金支給する。									
目標・実績	市の将来のまちづくり活動に取り組む意欲をもってもらい、市の活性化を図る。 平成30年度 高等学校等 8名支給 大学等 3名支給									
教育自己評価委員会の	成果と課題									
	入学支度金として現状の金額が妥当かどうか、また、現行の支給対象要件が適切かどうかを検討していく必要がある。									
	達成度	A	必要性	B	有効性	B				
評価理由	修学困難な生徒の入学支度金として修学奨励資金を支給することで、進学しやすい環境づくりの一助となることができた。		評価理由		修学困難な生徒に対し高等学校・大学等の入学支度金として、修学奨励資金を支給し、市の教育環境づくりを図ることを目的とする。		評価理由		入学支度金として修学奨励資金を支給することは、修学率の増加につながることで「人を育て文化が薫るまちづくり」の一環として有効性が高いと考える。	

※達成度・必要性・有効性は右記から選択してください。「A」高い、「B」やや高い、「C」やや低い、「D」低い

点検の評価員から	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭状況による子どもの進学に不公平さが生じないように、修学奨励資金の支給は継続していただきたい。できれば増額と、入学時の一時金だけでなく在学中の補助等も考えていただきたい。 ・非課税世帯が対象となっているが、兄弟のアルバイト収入により課税世帯となっても対象となるように、一部要綱を改定している。人育てに関わる事業であり、学びの保障や進学しやすい環境づくりの一助として、継続を望みたい。 	<p style="text-align: right;">点検評価支援員による総合評価 【 1 】</p>
----------	--	--

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

今後の方針	<p>〈施策の課題や点検評価員の意見をふまえた方向性〉</p> <p>家庭の経済的な理由により、修学が困難な生徒に対する支援として、必要な事業と考えており、今後も継続して事業を実施していく。また、今後も、支給対象要件等が適切かどうか検討しながら事業を推進する。</p> <p>また、現状の金額が妥当か、その他在学中の補助等についても、他の団体の状況も参考にしながら、検討していく。</p>	<p style="text-align: right;">事業の総合評価 【 2 】</p>
-------	--	---

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

事業名	〈宇陀市教育大綱に基づく主な施策・事業〉 3 地域全体で子育てを ・就学相談、教育相談、子育ての悩み等相談体制の充実 — 教育相談事業				所管課	教育総務課
事業の概要	臨床心理士による教育相談業務。主としては発達相談で、心理学的な見地から、保護者や教職員にアドバイスを行ったり、ニーズに応じて心理検査を行う。					
目標・実績	保護者・学校・幼稚園・保育所の担任、子どもが相談を受けることが可能で、家庭だけ、学校だけでない統一した子どもへの関わりや指導についてのアドバイスが可能であり、必要に応じて発達検査を行い、結果を保護者へ知らせ、相談を進めている。また、専門の相談員によるアドバイスがあるため利用者から評価が高く、幼稚園・保育所を卒園・卒業しても、継続して相談を受けるケースが多いため、今までの良い状態を低下させることなく事業を継続していかなければならない。 平成30年度は、112件・244回の相談を実施した。					
教育自己評価委員会の	成果と課題					
	問題を抱えている子どもたちが年々増えてきている中で、相談希望者の増加に伴い、相談員にもかなりの負担を強いている部分がある。今後も保護者や教員のニーズに応じていくためには、時間増や人員増の対応も考えていく必要がある。					
	達成度	A	必要性	A	有効性	A
評価理由	相談者が抱えている不安や悩みを学校以外の場所で気軽に相談できる機関として確立できた。		評価理由 幼稚園・保育所など早い時期での対応が、その児童に添った形での就学に結びついたり、専門の相談員によるカウンセリングにより児童生徒だけでなく保護者や教諭にも必要な場所となっている。		評価理由 大宇陀地域事務所という落ち着いた環境で実施することにより、利用者が人目を気にせず相談室に行くことができる。また、相談室と検査室が隣同士であることから子どもも保護者も安心してそれぞれで相談検査を受けることが可能である。	

※達成度・必要性・有効性は右記から選択してください。「A」高い、「B」やや高い、「C」やや低い、「D」低い

点検の主な見から	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活において抱えている不安や悩みを、本人だけでなく保護者も学校関係者も共に安心して相談できる場所が確保されていて、その存在が周知されてきているように思える。 社会の変化に伴い、相談対象者の増加がますます危惧されるので、さらなる人員確保や相談体制の充実に努められたい。 臨床心理士が2人であるため、平成30年度の112件、244回の相談は、満杯状態にあるといえる。専門のアドバイスを受けられるため利用者からの評価も高く、幼稚園や保育所を卒業・卒園しても継続して相談を受けるケースもあり、事業の継続と充実が必要である。 	点検評価支援員による総合評価 【 1 】
----------	---	----------------------

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

今後の方針	<p>〈施策の課題や点検評価員の意見をふまえた方向性〉</p> <p>点検評価員のご指摘のとおり、教育相談は保護者・学校関係者にとってなくてはならないものとなっている。また、今後もそのニーズは増加することが予想されることから、保護者や学校関係者が安心して相談を受けることができるよう、人員増や相談日数の増の対応を検討する。</p>	事業の総合評価 【 1 】
-------	---	---------------

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

事業名	〈宇陀市教育大綱に基づく主な施策・事業〉 3 地域全体で子育てを ・適応指導教室「はばたき」、通級指導教室「ほほえみ」、カウンセラー等の充実 － 教育センター事業(適応指導教室 はばたき)				所管課	教育総務課	
事業の概要	市内小中学校の不登校児童生徒の自立を図り、在籍校への復帰を促すとともに、状況に応じた適切な指導や学習の機会を設定し、学習継続への意欲化を図る。また、不登校児童生徒等に対する相談を保護者、教職員に対しても行う。						
目標・実績	適応指導教室に通室することで心の居場所をつくり、学習機会を確保することや、不登校の状態にある児童生徒の学校への復帰を促す。また、学校と連携を深め、状況に応じた適切な指導や学習の機会を設定し、学習継続への意欲を高める。教室以外の学習の場を設けることにより、児童生徒に選択肢を提供できる。						
教育委員会 自己評価 の	成果と課題 平成30年度は9名の正式通室生徒がおり、週2日、3名の指導員と補助員が相談・指導、学校との連携・調整を行った結果、6名が部分復帰した。しかし、通室しているのは不登校児童生徒の一部であり、まだ多くの不登校の子どもたちがおり、その子どもたちの居場所づくりが課題である。また、現状では通室生徒の学力保障を十分にできていない部分もあり、今後、学校復帰に向けた学力保障をどのようにしていくのかも課題である。						
	達成度	A		必要性	A		
	有効性	A		必要性	A		
評価理由	正式通室者が9名で、6名が部分復帰。 保護者や教職員へのこの教室の存在が浸透しつつある。		評価理由	長期欠席をしている児童生徒で学校教員だけの対応では解決をはかれない場合や、学校に拒否感のある児童生徒に対する受け入れ態勢が必要である。多様な取組やきっかけづくりの一步として重要。		評価理由	通室者を自然に受け入れ、落ち着ける場所、自分を理解してくれる場所として重要な存在となっている。

※達成度・必要性・有効性は右記から選択してください。「A」高い、「B」やや高い、「C」やや低い、「D」低い

点検評価員からの 主な意見	<ul style="list-style-type: none"> ・学校に拒否感のある児童生徒に対する受け入れ態勢が整い、その内容も周知されてきている。落ち着いた居場所として存在するだけでなく、将来の自立に向けた生きる力の醸成が図られることを望む。 ・教室の狭さが問題となり、また学力保障に向けての人員の確保等課題はまだまだあると思われるが、地道な努力を続けていただきたい。 ・臨床心理士や指導員、補助員がいる適応指導教室に通室することで心の居場所をつくり、学習機会の確保や不登校状態にある児童生徒の学校への復帰を促すという大切な場となっている。教室以外の場という選択肢が提供できる。保護者に対しても多様な取組やきっかけづくりの一步として重要である。今後も、学校や保護者と連携を深め、個々の実情に応じた適切な指導や学習機会の保障が望まれる。 					
	点検評価支援員による総合評価 【 2 】					

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

今後の方針	〈施策の課題や点検評価員の意見をふまえた方向性〉 学校へ行きにくい児童生徒の居場所・学校復帰へ向けてのきっかけづくりの場として、常設を検討する。また、現在は十分にできていない学力保障についても、学習指導員の任用を検討する。 現在は、通室者が中学生だけであるが、小学生からの早期対応も検討する。					
	事業の総合評価 【 1 】					

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

事業名	〈宇陀市教育大綱に基づく主な施策・事業〉 3 地域全体で子育てを ・適応指導教室「はばたき」、通級指導教室「ほほえみ」、カウンセラー等の充実 － 教育センター事業(通級指導教室 ほほえみ)		所管課	教育総務課		
事業の概要	小学校の通常の学級に在籍しているが、特別な教育的支援を必要としている子どもたちへ、担任以外の教育専門員によりそれぞれの子どもの実態に応じて通級による指導を行う。保護者、教職員、児童に対しても相談業務を行う。					
目標・実績	言葉の発達などの問題のため、本来もっている能力を十分に発揮しきれない児童に対し、個々に応じた指導を行い、生き生きと、スムーズに学校生活や社会生活をおくれるように支援する。通級指導児童が29名になり、定期的な指導相談ができています。教職員の相談や指導参観、教育相談も増えています。相談件数は54件、のべ相談回数は165回となった。					
教育自己 委員会の 評価	成果と課題 言葉や発達についての相談に対して需要が高く、相談を望む声が多く相談回数が増加している。今後も増加していく傾向にあると思われるため継続的な相談指導が必要である。また、家庭から出て、集団の場に入ることにより、社会性やコミュニケーションについての課題が明らかになり、相談に来られるケースが多く、指導員による適切な指導を図っている。					
	達成度	A	必要性	A	有効性	A
	評価理由	通級指導が必要な子どもたちが、定期的に通級指導を受けることによってコミュニケーション能力等を身につけ、上級学校への移行がスムーズになった。	評価理由	言葉やコミュニケーション、社会性に困難さを抱えている子どもたちが増えたので、学童期での早期対応、早期療育をすることが必要。 需要が横ばいにある。	評価理由	職員が言葉の専門家であるので、教職員と連携し、言葉の訓練を早くから行うことにより状態が改善されることが多い。特に学童期での関わりが重要であり、教職員や保護者への指導が有効。

※達成度・必要性・有効性は右記から選択してください。「A」高い、「B」やや高い、「C」やや低い、「D」低い

点検の 評価 員 意見 から	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉やコミュニケーション、社会性に困難さを抱えている子どもたちが学級で過ごしていると、学校が楽しいところではなくなっていくという現状を見極め、たとえ短時間でもそれらの子どもたちに専門家による通級指導の時間を確保することは日常生活に安定が見られる。特に低学年において早めに対応されることは、より有効である。 ・通級を希望したり必要と考えられたりする子どもたちが増加している、できるだけ丁寧に対応できるよう場所や人員の確保に努めていただきたい。 ・小学校で開室されて8年、中学校でも開室されることとなった。本年度の相談件数は54件、のべ165回と、言葉や発達についての需要が高く、相談回数は増加の傾向にある。通級児童も29名となり、市では2名の指導者を雇用している。指導員による適切な指導が極めて重要であり、さらなる拡充と体制の充実が望まれる。 	点検評価支援員による総合評価	【 1 】
----------------------------	---	----------------	-------

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

今後の方針	<p>〈施策の課題や点検評価員の意見をふまえた方向性〉</p> <p>通級指導教室を榛原小学校・榛原中学校の両校種に開設したことで、小中と継続した指導を受けることが可能な環境を整えることができたが、他校の児童生徒は保護者が送迎して通級指導を受けることになるので、保護者が送迎をできない児童生徒は通級指導を受けることができない。通級指導を必要としている児童生徒にその機会を保障できるように、通級の指導者が他校に訪問して通級指導を行う「訪問通級」を検討する。</p>	事業の総合評価	【 1 】
-------	---	---------	-------

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

事業名	〈宇陀市教育大綱に基づく主な施策・事業〉 3 地域全体で子育てを ・地域で取り組む児童虐待防止と「見守り」活動の推進 — 青少年育成支援事業			所管課	生涯学習課
事業の概要	青少年の規範意識や社会性の低下が社会現象となり、その要因として親子のふれあいや信頼関係の希薄化、家庭や地域の教育機能の低下等がある。学校、家庭、地域が一体となり、地域ぐるみで子育てをする体制を構築することでこれらを解消し、子ども自身の力を伸ばし、青少年の健全育成と地域の連帯、ふれあいを深めることを目的に広報、啓発活動・有害環境浄化活動を実施した。				
目標・実績	未来を担う子どもたちを健やかに育むために、地域全体で教育に取り組む体制をつくり、地域全体の教育力の向上を目指す。 平成30年度は、街頭啓発事業等を各学校と連携のうえ実施した。				
教育自己評価委員会の	成果と課題				
	街頭啓発活動として、市内中・高生から募集した青少年健全育成に係る標語を印刷したポケットティッシュを配布し、青少年の健全育成に努める。関係団体を所管したり、さまざまな支援活動を実施したりする青少年センターの設置が課題となっている。				
	達成度	B	必要性	A	有効性
	評価理由 街頭啓発活動や、有害図書の販売時の指導を実施したが、地域が連携して子どもたちを守る環境を充実していく必要がある。		評価理由 さまざまな活動を継続して実施し、各方面と連携しながら青少年健全育成を図る。		評価理由 街頭啓発活動や、有害図書の販売時の指導を実施するなど、有効性は高いが単発的になりがちなことから、活動の幅を広げていく必要がある。

※達成度・必要性・有効性は右記から選択してください。「A」高い、「B」やや高い、「C」やや低い、「D」低い

点検評価員の主な意見から	<ul style="list-style-type: none"> ・コンビニから成人向け雑誌が消えようとしている。子どもたちを有害図書から守る動きが色々な場面で展開されている。学校、家庭、地域が一体となり、地域ぐるみで子育てをする体制を構築し、子ども自身の力を伸ばし、青少年の健全育成と地域の連帯を更に進めなければならない。青少年センターの早期設置を求める。 ・挨拶がきちんとできない成年やかけがえのない命を奪われる事件、SNSなど、さまざまな社会問題が起こっている。そうした中、青少年健全育成協議会では、標語の募集や有害図書の販売指導、花火大会の巡回など活動を展開している。今後は、さらにソフト面も含め、関係団体を所管したり、支援活動を実施したりする活動の拠点づくりが課題になると思われる。
	点検評価支援員による総合評価 【 1 】

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

今後の方針	<p>〈施策の課題や点検評価員の意見をふまえた方向性〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インターネットの普及に伴い、さまざまな危険因子が身近にあることから、青少年の安全利用を促すため、青少年健全育成協議会等、諸団体との連携により、市民への啓発活動を積極的に進めていく。 ・青少年センターの設置については、当分の間の課題としているが、本市における体制づくりを模索し、検討を行う。
	事業の総合評価 【 1 】

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

事業名	〈宇陀市教育大綱に基づく主な施策・事業〉 3 地域全体で子育てを ・地域で取り組む児童虐待防止と「見守り」活動の推進 — 子ども活動支援事業			所管課	生涯学習課
事業の概要	地域教育力再生の契機として、地域ぐるみで学校をサポートするボランティア活動を支援することによって、子どもたちの学習補助や環境の整備、登下校の見守りなど子どもたちが安全で安心な学校生活がおくれる環境を整える。				
目標・実績	地域ぐるみで子育てをする体制を構築することにより学校と地域が連携して子どもたちの学習補助を行う環境整備を行う。				
教育自己 委員会 の 評価	成果と課題				
	市内全小中学校において事業を実施し、それぞれの学校の取組において地域の方々との協働を実施している。スクールバスの運行時刻等の問題により、放課後に行う事業への取組に時間の制限がある。地域で意欲的に取り組んでもらえるように進めていきたい。				
	達成度	B	必要性	A	有効性
	評価理由		評価理由		評価理由
	市内全小中学校が事業を実施したが、ボランティアの確保が課題である。		地域に開かれた学校づくりを目指し、地域の教育力を高めるために必要な取組である。		地域の人々が学校運営に参画することができる有効な事業である。

※達成度・必要性・有効性は右記から選択してください。「A」高い、「B」やや高い、「C」やや低い、「D」低い

点検 評価 員 から の 主 な 意 見	<p>・地域の人材をいかに学校現場で活躍してもらうか。それぞれの学校事情と地域の実情を組み合わせ、より有意義な学校支援体制を確立し、子どもたちの成長に寄与していただきたい。子どもたちの学力保障が各家庭の事情により左右されることがあってはならない。コーディネーターを中心としたボランティアの積極的な活躍はまだ期待できる。</p> <p>・「地域ぐるみで子育て」をしようと、学習支援と見守り・環境整備の2つの柱で活動が進められている。学校教員の職務の多忙化が叫ばれるなか、コーディネーターやボランティアの確保、見守りボランティアの継続、スクールバス運行との調整など多くの課題があるが、地域に開かれた学校づくりのためにも続けていくことが大切であると考えます。</p> <p style="text-align: right;">点検評価支援員による総合評価 【 2 】</p>
--	---

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

今後 の方 針	<p>〈施策の課題や点検評価員の意見をふまえた方向性〉</p> <p>学習支援、見守り活動等「地域ぐるみで子育て」する体制を地域や学校の実情に応じ、継続して開かれた学校づくりができるよう環境を整えていきたい。地域コーディネーター、ボランティアの人材確保に努める。</p> <p style="text-align: right;">事業の総合評価 【 2 】</p>
---------------	---

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

事業名	〈宇陀市教育大綱に基づく主な施策・事業〉 3 地域全体で子育てを ・地域で取り組む児童虐待防止と「見守り」活動の推進 — 子どもフェスタ事業		所管課	生涯学習課		
事業の概要	あそび体験を通じて、仲間づくりや参加者の交流を深めるとともに豊かな感性を育み、未来を担う宇陀市の子どもたちの健全育成を図る。					
目標・実績	事業実施にあたっては、企画立案から実施までを実行委員会を通じて行っている。実施内容は、紙飛行機大会、クラフト、軽スポーツ体験、紙芝居など様々なコーナーを準備。平成30年9月8日(日)に開催し、子ども736人 大人552人 計1,288人の参加を得た。会場スタッフとして、275名の協力のもと運営を行った。					
教育委員会 自己評価 の	成果と課題 平成30年度は、1,288人の参加により、大人も子どもも一緒になってフェスタを楽しむことができた。実行委員会が主体となって事業に取り組むことができた。 ペットボトルキャップを集め、ポリオワクチンを海外へ届ける事業にも引き続き協力をしていきたい。 今後は、ボランティアの参加を維持していくことが課題である。					
	達成度	A	必要性	A	有効性	A
	評価理由	実行委員会の企画立案から運営まで、市民主導により事業を実施している。内容や模様を少しずつ変えながら、事業を補助していきたい。	評価理由	市内の子どもたちが一堂に会する機会を設け交流する、他に類のない事業である。	評価理由	体験を通じて仲間づくりや、さまざまな人との交流が図れ、豊かな心・健全な心の醸成の一助となっている。 また、榛生昇陽高校のボランティアの参加もいただけた。

※達成度・必要性・有効性は右記から選択してください。「A」高い、「B」やや高い、「C」やや低い、「D」低い

点検評価員からの主な意見	<p>・多くのボランティアの助けにより運営されている事業で、実行委員会が主体となって取り組んでいる成果が定着している。高校生ボランティアも大いに活躍されている。子どもたちが楽しみにしているフェスタが長く継続されるように、実行委員会の若返りなども視野に入れた市民主導型の事業として発展することを望む。</p> <p>・市内の子どもたちが一堂に会し、遊び体験を通して、人とつながったり、記録に挑戦したり、作品をつくったりする貴重な事業となっている。約1,300人の参加者が継続しており、内容は多彩で、企画立案、実施に至るまで多くの実行委員が関わり、運営されている。他に類のない事業であり、継続することが望ましいと考える。</p> <p style="text-align: right;">点検評価支援員による総合評価 【 2 】</p>
--------------	---

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

今後の方針	<p>〈施策の課題や点検評価員の意見をふまえた方向性〉</p> <p>子どもフェスタ事業は、子どもたちが実体験できる機会やコミュニケーション力の向上を図る機会として、有意義なイベントである。今後も継続して、実行委員会が中心となり、ボランティアのかかわり方や運営方法等を工夫して、子どもたちが喜んで参加できるよう取り組んでいきたい。</p> <p style="text-align: right;">事業の総合評価 【 2 】</p>
-------	---

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

事業名	〈宇陀市教育大綱に基づく主な施策・事業〉 4 人権文化の創造 「学びあい、支えあい、協働できる」社会教育環境づくり — 公民館管理運営事業		所管課	中央公民館		
事業の概要	宇陀市民一人一人が、心豊かに健康で生きがいのある人生を過ごすために、生涯にわたって主体的に学習を継続することが求められていることを踏まえ、生きる喜びを分かち合える生涯学習社会の構築を目指して、地域課題や市民の学習ニーズに即した学習機会の提供を図るとともに、地域に根ざした公民館活動を推進する。					
目標・実績	身近な学習や文化活動が、誰でも気楽に活動できるような環境整備に努め、文化的活動の機会や地域住民と公民館活動をつなぐ情報提供に努めるとともに、各種団体と協力・連携し地域の教育・文化の振興を図る拠点とする。また、自主グループの育成を推進し、各分館の施設利用率の増加を図る。 ・平成27年度使用料(4分館) 3,044,975円 ・平成28年度使用料(4分館) 3,388,675円 ・平成29年度使用料(4分館) 2,363,435円 ・平成30年度使用料(4分館) 3,416,905円					
教育自己委員会の評価	成果と課題 公民館の施設利用のほとんどは自主グループ及び定期利用団体であり、利用率は概ね順調である。さらなる利用率向上を図るため自主グループの育成に努めるとともに、現グループの活動を支援する必要がある。 ・平成27年度自主グループ登録数 40団体 ・平成28年度自主グループ登録数 38団体 ・平成29年度自主グループ登録数 38団体 ・平成30年度自主グループ登録数 42団体					
	達成度	A	必要性	A	有効性	A
	評価理由	適切な施設の維持管理及び運営ができたと考える。しかしながら、老朽化に伴い年々修理箇所が増えてきている。	評価理由	市民が「集い・学び・繋がる」機会と場の提供のため、公民館の必要性は高く、さらなる施設の環境整備に努める。	評価理由	実生活に即する教育、学術及び文化に関する各種の事業を行い、もって市民の教養の向上、健康増進、情操の純化を図り、生活文化の振興、社会福祉の増進に寄与できたと考える。

※達成度・必要性・有効性は右記から選択してください。「A」高い、「B」やや高い、「C」やや低い、「D」低い

点検の評価員から	<p>・公民館の施設利用のほとんどは自主グループ及び定期利用団体であり、利用率は概ね順調であるというが、公民館の講座が一定効果を上げた場合、自主運営に切り替わっていくシステムが定着している確率はどれだけのなか、継続のための事務作業が一部のメンバーの負担になっていないのか等をきちんと検証されているのか。施設利用費の補助だけでなく、運営面での支援の継続も必要ではないか。</p> <p>・使用料は、総合センターの改修工事が終了し、概ね順調であり、自主グループや定期利用団体も順調である。高齢化などにより現グループの活動がさまざまな課題を抱えており、生活文化の向上や社会福祉の増進のためにも支援が必要であると考えている。</p>
	点検評価支援員による総合評価 【 2 】

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

今後の方針	<p>〈施策の課題や点検評価員の意見をふまえた方向性〉</p> <p>3年連続で実施した講座に関しては、受講者の希望を聞きながら自主グループへの移行を促しており、毎年度1～2グループが公民館講座より誕生している。また、平成30年度より自主グループの登録が年1回から随時登録ができるよう要綱の改正を行い、要件さえ整えばいつでも登録ができるようになっていく。今後は結成した自主グループと連携し運営面においても支援できるよう検討するとともに、活動内容の発表ができる場を提供していきたい。</p>
	事業の総合評価 【 2 】

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

事業名	〈宇陀市教育大綱に基づく主な施策・事業〉 4 人権文化の創造 「学びあい、支えあい、協働できる」社会教育環境づくり ー 各種講座・教室事業	所管課	中央公民館			
事業の概要	市民のニーズに合った講座の充実を図り、自主グループ・リーダーの養成とまちづくり・まちおこしなど地域社会参加の促進を図る。「定期講座」は各分館にて開催し、1年を通じて初歩から応用までを学習する。「市民教養講座」、「入門講座」、「生涯学習講座」については各分館を会場とし、各テーマを設けて、知識の向上、趣味の輪の拡大、健康の保持や生きがいづくりを目指した講座を開設。					
目標・実績	社会教育法に基づき、市民のために実生活に即した教育・学術・文化に関する各種の事業を行い、もって市民の教養向上、健康の増進を図り生活文化の振興、社会福祉の増進に寄与することを目的とする。 参加者述べ人数 1,585名					
教育委員会の自己評価	成果と課題 各講座・教室では、応募者が定員以上になり抽選を行うものもあるが、反面、応募者が少なくやむなく中止したものもあった。人気の定期講座は開催回数を増やし、参加人数が少ない講座については、開催時期や時間を変更するなどの工夫が必要と考える。近隣市の講座の動向や市民が求める講座の把握に努める。また、周知についても広報誌や宇陀チャン以外にも市民への周知の方法を検討し、より多くの参加者を得るよう努める。今後さらに幅広い年代の受講生を対象とするため、時代に合った講座や開催時間の検討も必要と考える。令和元年度より同一講座を二分館で開催している。					
	達成度	A	必要性	A	有効性	A
	評価理由 幅広い年代層に興味を持っていただく講座内容、開催日時の検討が必要。また、参加者が少ない講座については様々な方法の周知を行い、随時募集を行うことも検討する。	評価理由 社会教育法に基づく公民館活動を達成するため必要と考えるが、適切な講座数、募集人数並びに開催回数の見直しも必要と考える。	評価理由 講座及び学級等を開催することにより、市民の教養向上、健康の増進、生活文化の振興、社会福祉等の促進を図ることができる。			

※達成度・必要性・有効性は右記から選択してください。「A」高い、「B」やや高い、「C」やや低い、「D」低い

点検の評価員から	<ul style="list-style-type: none"> 幅広い年齢層に対応した講座の開催や、そのことに対する周知については広報誌や宇陀チャン以外にも方法を検討し、より多くの参加者を得るよう努める必要がある。 市民の交通手段等も考慮し、近くの分館で学びたい講座を受講できるようにした同一講座の多分館での開催の効果に期待したい。 講座の参加者は、のべ約1,600人前後で推移している。応募者が少ない講座を中止したり、申し込みの多い講座は2会場で実施したりするなどしている。総合体育館の類似事業との調整などさらなる工夫改善を重ねて継続することが大切だと考える。 <p style="text-align: right;">点検評価支援員による総合評価 【 2 】</p>
----------	--

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

今後の方針	〈施策の課題や点検評価員の意見をふまえた方向性〉 引き続き定期講座や生涯学習講座、随時募集の市民教養講座や入門講座等各種の講座・教室を開催していくとともに、さらに事業の改善・工夫・検討を行う。また、受講生のアンケート等により、市民の学習ニーズを把握し、幅広い年代の方が多数参加いただけるよう、開催場所、開催曜日、開催時間等を十分検討するとともに、生涯学習関連課の類似事業との調整を図る。
事業の総合評価 【 2 】	

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

事業名	〈宇陀市教育大綱に基づく主な施策・事業〉 4 人権文化の創造 「学びあい、支えあい、協働できる」社会教育環境づくり — 社会教育推進講座事業				所管課	中央公民館
事業の概要	社会教育の推進及び公民館と地域のつながりを深めるため、市内各地域のまちづくり協議会が、地域の課題を解決するために開催する講座や、研修会等に講師の紹介あるいは講師を派遣し、予算の範囲内において講師派遣の費用を支援する。					
目標・実績	市内にある22のすべてのまちづくり協議会が事業実施し、地域の課題に取り組むとともに地域の活性化につなげる。 平成30年度実績 15団体18事業 延べ1,225人が参加					
教育自己評価委員会の	成果と課題 講座や研修会の進め方や内容等についてはまちづくり協議会まかせになった。今後は公民館としても企画段階より事業に参画していきたい。					
	達成度	B	必要性	A	有効性	A
	評価理由	評価理由		評価理由		
	初年度としては、多くのまちづくり協議会が事業実施したが、すべてのまちづくり協議会が実施できるよう啓発に努める。		地域と公民館がつながり、社会教育を推進するため必要性は高い。		各地域のまちづくり協議会がそれぞれの地域の課題に取り組み、これを解決するための講座や研修会、イベントを実施し地域の活性化に繋がっている。	

※達成度・必要性・有効性は右記から選択してください。「A」高い、「B」やや高い、「C」やや低い、「D」低い

点検評価員からの主な意見	<ul style="list-style-type: none"> ・市内にある22のすべてのまちづくり協議会が事業実施し、地域の課題に取り組むとともに地域の活性化につなげることを目指して平成30年度から始められた事業であるが、実施協議会は15団体にとどまっている。すべてのまちづくり協議会において、地域の活性化につながる講座やイベント等が実施されるようさらなる支援の充実を図る必要がある。 ・市内にあるすべてのまちづくり協議会が事業実施をし、地域課題に取り組むとともに、地域活性化を目指して推進されている。「認知症」や「絵手紙」、「多世代交流」などであり、支援をおこなっている。まちづくり支援課とも連携・調整を十分に行い、社会教育の位置づけをもって、人権文化の創造に努めていく必要があると考える。 <p style="text-align: right;">点検評価支援員による総合評価 【 1 】</p>
--------------	---

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

今後の方針	<p>〈施策の課題や点検評価員の意見をふまえた方向性〉</p> <p>まちづくり支援課や各地域の地域アドバイザーとの連携をさらに強化し、すべてのまちづくり協議会が事業実施していただけるよう啓発を強化する。</p> <p style="text-align: right;">事業の総合評価 【 1 】</p>
-------	--

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

事業名	〈宇陀市教育大綱に基づく主な施策・事業〉 4 人権文化の創造 「学びあい、支えあい、協働できる」社会教育環境づくり — 市美術展事業			所管課	生涯学習課
事業の概要	平成30年11月3日(土/祝)～11月6日(火)の間、「奈良カエデの郷ひらら」において絵画・書芸・写真・彫塑工芸部門を設け、展覧会を実施した。				
目標・実績	出展数87点、来場者数延べ915人。参与作家の協力による作品の展示7点。今回、榛原中学校書道部作品の大作を展示した。より格調高い市美術展覧会を目指し、創作意欲の向上を促し、芸術文化の向上を図る。				
教育自己評価委員会の	成果と課題				
	出展数は12点の減、来場者は46人の減で、ともに前年度より減少した。会場を市役所5階から「奈良カエデの郷ひらら」に変更し開催したが、今後、公民館活動作品を出展していただくなど、工夫しながら、多くの来場者の獲得を図る。				
	達成度	B	必要性	A	有効性
	評価理由		評価理由		評価理由
	出展数及び来場者がやや減少。周知の仕方及び開催の仕方を工夫し、来場者の増加を図る。		文化芸術活動を行うことで創造力や表現力を高め、豊かな心を持った社会を形成していくに資する事業である。		文化芸術作品を創造し、鑑賞することで、心豊かな社会形成・魅力あるまちづくりを推進する。

※達成度・必要性・有効性は右記から選択してください。「A」高い、「B」やや高い、「C」やや低い、「D」低い

点検評価員の主な意見から	<ul style="list-style-type: none"> ・色々な条件を考慮しながら右往左往した展示会場がやっとカエデの郷ひららで落ち着いたのではないかと考える。今後は出展数を増やすための工夫や、来場者を集めるための周知法などをさらに検討し、市全体で盛り上がる美術展を目指していただきたい。 ・秋の深まる11月、会場をカエデの郷ひららに変更して開催された。来場者も少し減少したが、900人以上の方が来られている。周知の方法や公民館事業との連携を進めるとともに、今年展示された中学校書道部の作品などをさらに広げ、継続していくことが望ましいと考える。
	点検評価支援員による総合評価 【 2 】

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

今後の方針	<p>〈施策の課題や点検評価員の意見をふまえた方向性〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後も秋の紅葉にあわせ「カエデの郷ひらら」で開催できるよう調整し、宇陀市の芸術文化の進展のため、美術展覧会を開催する。 ・出展数を増やすため、文化協会及び公民館等にも協力を得て、市民の文化活動の向上に努めていきたい。
	事業の総合評価 【 2 】

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

事業名	〈宇陀市教育大綱に基づく主な施策・事業〉 5 郷土を誇り郷土を愛する人材づくり ・史跡と文化財学習の推進、伝統文化の推進と継承 — 文化財保存修理等補助事業		所管課	文化財課		
事業の概要	国・県・市指定文化財(以下、「指定文化財」という。)の所有者(個人・宗教法人・自治会)が行う防災設備点検等経費の負担軽減、所有者が行う建造物等の保存修理経費の負担軽減、所有者が行う防災設備設置・収蔵庫建設・環境整備(草刈、庭木の剪定)等の経費の負担軽減、また市指定民俗文化財を維持伝承していくため、後継者を育成するための経費等の負担軽減を図ることを目的に、これら文化財保護に関して補助金を交付する。					
目標・実績	指定文化財の保存修理、防災設備設置・点検、環境整備、収蔵庫建設、民俗文化財伝承等を実施した団体又は個人に対して補助金の交付を行い文化財の保護を推進する。 (平成30年度 保存修理 3件・防災設備点検等 10件・防災設備設置 1件・収蔵庫建設 1件・環境整備 2件・民俗文化財伝承事業 3件)					
教育委員会 自己評価 の	成果と課題					
	指定文化財の保護・管理等の諸事業の実施により、適切な状態に保たれている。点検等により不具合が発見されれば修理を行い、毎年の防災設備の点検等は消防法の規定に基づき実施され、機器等は良好に作動している。今後も、指定文化財の適切な保護・管理を行っていくため、国、県、所有者と連携しながら継続していく。					
	達成度	A	必要性	A	有効性	A
	評価理由		評価理由		評価理由	
	防犯設備の整備をされた寺社も増え、所有者と共に指定文化財の適切な保護・管理等ができた。		指定文化財は、その重要性に鑑み、適切な管理を行うためにさまざまな法的規制があり、指定文化財の保護・管理を適正かつ円滑に実施するには、特別な経費を要する。事業実施にあたり、所有者の負担軽減を図ることは、文化財の保護に必要である。		指定文化財の適切な保護・管理が実施でき、貴重な文化財を後世に伝えていくことができる。	

※達成度・必要性・有効性は右記から選択してください。「A」高い、「B」やや高い、「C」やや低い、「D」低い

点検の評価員から	<ul style="list-style-type: none"> ・貴重な文化財が後世に引き継がれていくためには、所有者の負担軽減を図りながら適切な保護管理が行われなければならないが、補助金の配分等については適正を期さなければならない。 ・文化財の価値を認め後世に残していくことの必要性を周知し、市民の理解を得るための広報活動にも尽力されたい。また後継者となる若者の育成も重要なことである。 ・平成30年度は保存修理3件、防災設備点検10件など、年次ごとに計画的継続的に実施されている。設備が整備された寺社も増え、文化財保護に貢献しており、貴重な文化財を後世に伝えるため今後も進めていく必要が大きいと考える。 	点検評価支援員による総合評価 【 2 】
----------	---	----------------------

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

今後の方針	<p>〈施策の課題や点検評価員の意見をふまえた方向性〉</p> <p>近年、文化財の火災等による損失が発生し、指定文化財の保護と継承が喫緊の課題となっている。引き続き、文化財所有者と協力し防火設備整備等を推進する。</p>	事業の総合評価 【 2 】
-------	---	---------------

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

事業名	〈宇陀市教育大綱に基づく主な施策・事業〉 5 郷土を誇り郷土を愛する人材づくり ・史跡と文化財学習の推進、伝統文化の推進と継承 ー 薬の館管理運営事業	所管課	文化財課												
事業の概要	市民の歴史・文化意識の向上を図るとともに、伝統的建造物に対する理解を深めることを目的とし、内部公開を兼ねた展示施設『宇陀市歴史文化館「薬の館」(宇陀市指定文化財)』の管理・運営を行っている。 建物の公開・管理・運営等が主な業務で、シルバー人材センターに管理委託している。建物の修理等は文化財課が実施している。														
目標・実績	松山地区の代表的な商家町屋で、薬関係の展示施設となっており来館者が多く訪れる。生涯学習の教材として小学校等の授業にも活用されている。宇陀松山の歴史を学び、伝統的な空間を体感できる施設である。 薬の館(旧細川家住宅)は、江戸時代末期の建築と推定される。細川家は薬問屋であり、薬商として「人参五臓園」「天寿丸」という腹薬を販売。館内では薬関係の資料を中心に展示し、大型の鍾馗像の寄贈を受け展示している。有料公開{入館料大人300円小人150円(団体 大人200円小人100円)}。平成30年度の入館者数は、2,420人。														
教育自己評価の	成果と課題 月・火の休館日においても、視察団体等の予約が入れば特別開館し、来館者数の確保に取り組んでいる。 入館者数を増やすための展示変えやイベントが必要であると感じている。														
自己評価の	<table border="1"> <tr> <td>達成度</td> <td>A</td> </tr> <tr> <td>評価理由</td> <td>多くの方々が来館し、見学していただいている。大型の鍾馗像の展示は好評を得ている。</td> </tr> </table>	達成度	A	評価理由	多くの方々が来館し、見学していただいている。大型の鍾馗像の展示は好評を得ている。	<table border="1"> <tr> <td>必要性</td> <td>A</td> </tr> <tr> <td>評価理由</td> <td>当施設は、重要伝統的建造物群保存地区内の伝統的建造物でもある。歴史を学ぶ施設、伝統的な空間を体感できる施設は少なく、公開する必要がある。</td> </tr> </table>	必要性	A	評価理由	当施設は、重要伝統的建造物群保存地区内の伝統的建造物でもある。歴史を学ぶ施設、伝統的な空間を体感できる施設は少なく、公開する必要がある。	<table border="1"> <tr> <td>有効性</td> <td>A</td> </tr> <tr> <td>評価理由</td> <td>多くの方々が来館し、当館の薬の歴史を学んだ。必要に応じて管理人が館内の案内や説明を行い、理解を深めてもらっている。また、他市町村等からの視察や市行事での施設見学会も行っている。</td> </tr> </table>	有効性	A	評価理由	多くの方々が来館し、当館の薬の歴史を学んだ。必要に応じて管理人が館内の案内や説明を行い、理解を深めてもらっている。また、他市町村等からの視察や市行事での施設見学会も行っている。
達成度	A														
評価理由	多くの方々が来館し、見学していただいている。大型の鍾馗像の展示は好評を得ている。														
必要性	A														
評価理由	当施設は、重要伝統的建造物群保存地区内の伝統的建造物でもある。歴史を学ぶ施設、伝統的な空間を体感できる施設は少なく、公開する必要がある。														
有効性	A														
評価理由	多くの方々が来館し、当館の薬の歴史を学んだ。必要に応じて管理人が館内の案内や説明を行い、理解を深めてもらっている。また、他市町村等からの視察や市行事での施設見学会も行っている。														

※達成度・必要性・有効性は右記から選択してください。「A」高い、「B」やや高い、「C」やや低い、「D」低い

点検評価員の主な意見から	<ul style="list-style-type: none"> ・薬の館として歴史的な価値のある建物の保護修理を図りながら公開されるだけでなく、宇陀の地が薬草と切っても切れない関係にあることを、さらに周知する活動の拠点として展示内容の工夫や特別開館など見学者を呼び込む工夫をされたい。 ・建物の公開、管理などはシルバー人材センターに管理委託され、建物の修理等は文化財課が実施している。松山地区の商家町屋で、小学校等の授業にも活用されている。入館者は、昨年度とほぼ同じであり、展示に工夫を加えたり、イベントにつなげたり、さらに改善を重ねたいと考える。 <p style="text-align: right;">点検評価支援員による総合評価 【 2 】</p>
--------------	--

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

今後の方針	〈施策の課題や点検評価員の意見をふまえた方向性〉 薬の館の展示物は基本的に開館当初から変わっていないため、大和当帰等の薬草展示についても関係課と協議するなど、薬関係の展示物の整理と展示の工夫を行い、来館者の増加を図る。 <p style="text-align: right;">事業の総合評価 【 2 】</p>
-------	---

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

事業名	〈宇陀市教育大綱に基づく主な施策・事業〉 5 郷土を誇り郷土を愛する人材づくり ・史跡と文化財学習の推進、伝統文化の推進と継承 － 重要伝統的建造物群保存地区保存事業		所管課	文化財課		
事業の概要	<p>周囲の環境と一体をなして歴史的な風致を形成している伝統的な建造物群を「伝統的建造物群保存地区」、国は特にその価値が高いとして宇陀松山地区を奈良県で2番目の「重要伝統的建造物群保存地区」に選定した。国選定は平成18年7月5日・指定面積17ha・保存事業期間 平成18年度～。</p> <p>歴史的町なみの特性を維持回復するため、地区内の伝統的建造物の修理及びそれ以外の建造物の修景に対して補助金の交付を行い、防災施設等の整備も行う事業である。</p>					
目標・実績	<p>歴史的風致を構成する要素である伝統的建造物の中でも「特定物件(所有者の保存同意を得た伝統的建造物)」を増やすことが必要不可欠であり、また、伝統的建造物以外の建物の修景も景観の保全には必要であり、これらの修理・修景補助の件数を増やし、歴史的な町なみを保全する。住民参加型の検討会を開催し重伝建地区の安全・安心を図る防災機器(消火器)を一部設置した。また、松山地区の代表的な建物の大宇陀福祉会館の耐震改修工事を実施した。平成30年度の町家の実績は、修理5件、修景2件を実施。</p>					
教育委員会 自己評価 の	成果と課題					
	<p>特定物件(伝統的建造物)の指定は所有者の同意が必要であることから、町家の修理事業と同時に特定物件指定を受ける所有者が増えている。修理事業の相談時に所有者へ特定物件指定を働きかけている。大宇陀福祉会館耐震改修工事の発注。防災計画に基づき、松山地区住民と協働で防災設備整備事業を進め、消火器の設置が出来た。町家の修理事業の希望者は増えてはいるが、国の補助金等は要望額より低く抑えられている。</p>					
	達成度	A	必要性	A	有効性	A
	評価理由	町家の修理事業は予定通り完了できた。防災計画に基づき防災設備の整備が一部できた。大宇陀福祉会館耐震改修工事の発注を行った。	評価理由	修理・修景が必要な物件の数は多く、歴史的景観の保全には町家の回復が必要不可欠である。老朽化した町家は、修理により安全・安心な住居となり、生活環境の向上が図れている。木造建築物が多くを占める地区は、防災計画に基づく防災施設整備が必要であり今後進める。	評価理由	「町なみの景観が良い」と来訪者も増えてきており、メディアの取材や行政視察も相次ぎ、今後の集客にも期待ができる。

※達成度・必要性・有効性は右記から選択してください。「A」高い、「B」やや高い、「C」やや低い、「D」低い

点検の評価員から	<p>・従来から生活をされている地域住民にとっても、町家の修理事業による歴史的景観の保全が進んだことは喜ばしいことだと受け止められている。住民参加型の検討会を引き続き実施し、住みやすくまた観光しやすい町なみとしてさらに進められることを望む。</p> <p>・福祉会館が新たな観光の拠点となり、「おもてなし」施設として活用されることを期待する。</p> <p>・松山地区の代表的な建物「大宇陀福祉会館」の耐震改修工事を実施し、基礎からしっかりとした工事を進めた。町家の実績では、修理5件、修景2件を実施しており、「町なみの景観が良い」という来訪者も増えており、事業の推進と継続が必要と考える。</p>	点検評価支援員による総合評価 【 2 】
----------	---	----------------------

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

今後の方針	<p>〈施策の課題や点検評価員の意見をふまえた方向性〉</p> <p>歴史的な町なみ景観を守るため、町家所有者と協議しながら修理補助金の活用を図ると共に、大宇陀福祉会館改修工事を進め来訪者へのおもてなし施設整備を推進する。</p>	事業の総合評価 【 2 】
-------	---	---------------

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

事業名	〈宇陀市教育大綱に基づく主な施策・事業〉 5 郷土を誇り郷土を愛する人材づくり ・史跡と文化財学習の推進、伝統文化の推進と継承 － 埋蔵文化財発掘調査事業				所管課	文化財課
事業の概要	市内遺跡の発掘調査、個人の開発行為に先立つ事前の発掘調査、遺跡保存を目的とした範囲確認調査、過年度に実施した発掘調査の調査成果整理、市内遺跡の分布調査、出土遺物保存処理、公共工事に伴う事前の発掘調査等を実施し、埋蔵文化財の保護対策を講じる。					
目標・実績	遺跡の発掘調査を行い、保護対策を講じるとともに記録を行い、後世に郷土の歴史を伝える。 下城・馬場遺跡で出土した遺物整理作業(整理箱8箱)を実施。宇陀地域最大規模の不動塚古墳群の測量と発掘調査を実施した。宇陀松山城跡から出土した鬼瓦の復元模造を作成した。					
教育自己評価委員会の	成果と課題					
	発掘調査により貴重な埋蔵文化財(遺跡)の保護対策(遺跡の記録・遺物整理等)を講じることができた。市内には、未調査の埋蔵文化財等が多数あり、今後も計画的な発掘調査が必要である。鬼瓦の模造の作成により、来訪者等への出土遺物の啓発等が容易になった。					
	達成度	A	必要性	A	有効性	A
	評価理由		評価理由		評価理由	
	宇陀地域最大規模の不動塚古墳群の調査に着手した。宇陀松山城から出土した鬼瓦の模造を作成できた。		発掘調査等により出土した埋蔵文化財は、郷土の歴史や当時の生活環境を知るうえで重要な史料となる。		埋蔵文化財(遺跡)の保存・整理は、郷土の歴史を後世に伝える重要な業務である。	

※達成度・必要性・有効性は右記から選択してください。「A」高い、「B」やや高い、「C」やや低い、「D」低い

点検の評価員から	<ul style="list-style-type: none"> ・宇陀松山城から出土した鬼瓦の模造が出来上がったので、色々な人に見てもらえる展示の工夫をしていただきたい。 ・小学校等にも瓦の模造を持って行って、埋蔵文化財等を含んだ郷土の歴史を伝える講座等も開いて後継者の育成にも尽力されたい。 ・遺跡で出土した遺物整理や宇陀地域最大規模の古墳群の測量や発掘調査を実施したり、松山城跡から出土した鬼瓦の復元模造を作成したりしている。郷土の歴史を後世に伝えるため、今後も計画的に継続的に進められる必要があると考える。 	点検評価支援員による総合評価 【 2 】
----------	--	----------------------

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

今後の方針	〈施策の課題や点検評価員の意見をふまえた方向性〉 約400年前の城跡からの瓦等の出土は珍しく、年1回程度、数点他市への貸し出しも行い、宇陀松山城の啓発も行っていく。鬼瓦の復元模造も増えてきたため、今後は出前講座等により郷土の歴史等を子どもたちに伝える事業も展開していく。	事業の総合評価 【 2 】
-------	--	---------------

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

事業名	〈宇陀市教育大綱に基づく主な施策・事業〉 5 郷土を誇り郷土を愛する人材づくり ・史跡と文化財学習の推進、伝統文化の推進と継承 ー 街なみ環境整備事業			所管課	文化財課	
事業の概要	松山地区の「松山らしさ」の再確認と新たな展開に向けて、「伝統的な街なみ」や「伝統的な暮らし」に着目するまちづくりを進め、総合的なまち活力の再生を図る。 平成13年度より令和2年度までの20年間で、歴史的な街なみの骨格となる道路を中心に地区内(約35ha)の生活環境施設、公園、防災施設等の整備事業を実施し、歴史的、生活的、自然的な環境を生かした、住民の発意と創意に基づく街なみを形成する。					
目標・実績	松山地区の特性に応じた個性的で質の高いまちづくりとするため、道路と電柱の美装化・街路灯整備・公園整備・生活環境施設整備・防火施設整備等の住環境の整備改善を行う。 (宇陀市大字松山地区 整備区域面積 35ha) 平成30年度は春日門跡小公園整備事業に着手した。					
教育自己評価 委員会の	成果と課題 街なみ環境整備事業により、横断電線類の地中化、道路の美装化工事により、質の高い古い街なみを形成することができた。 松山地区の主要道路である松山通り道路美装化工事により、街なみ景観の改善ができた。春日門跡小公園整備事業により街なみ環境整備事業が終了する。					
	達成度	A	必要性	A	有効性	A
	評価理由	松山通りは狭隘な地域の主要道路であるが、地元住民の協力により事業実施することができた。		評価理由 横断電線の地中化と道路の美装工事は、松山地区の個性的で質の高い歴史的なまちづくりに必要である。	評価理由 道路等の美装化は、町家の修理とともに歴史的な街なみ環境を生かし、住民の発意と創意に基づく景観を形成することができる。	

※達成度・必要性・有効性は右記から選択してください。「A」高い、「B」やや高い、「C」やや低い、「D」低い

点検の主な意見から	・春日門跡小公園整備事業により街なみ環境整備事業が終了するということであるが、今後は修理された歴史的な景観をいかに保存形成していくかということについて、地域住民と共に工夫を重ねていただきたい。 ・横断電線類の地中化や道路の美装化工事により、質の高い古い街なみを形成することができている。 春日門跡小公園整備事業により街並み環境整備事業は終了する。				
	点検評価支援員による総合評価 【 5 】				

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

今後の方針	〈施策の課題や点検評価員の意見をふまえた方向性〉 街なみ環境整備事業は道路美装化工事と電線半地中化事業を中心に行ってきた。事業実施中の春日門跡小公園整備事業は令和元年度で完了し、それに伴い街なみ環境整備事業が終結する。				
	事業の総合評価 【 5 】				

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

事業名	〈宇陀市教育大綱に基づく主な施策・事業〉 5 郷土を誇り郷土を愛する人材づくり ・史跡と文化財学習の推進、伝統文化の推進と継承 ー 史跡宇陀松山城跡保存整備事業				所管課	文化財課
事業の概要	宇陀松山城は、豊臣政権のもとで、大和郡山城・高取城と並ぶ大和支配の拠点として誕生した。残念ながら城は、30年という短い期間でその役割を終えた。宇陀松山城跡の特徴として、城郭全域にわたって城割(しろわり)を受けていることが挙げられる。現在、地表観察等で確認できる城跡の状況は、城割後の姿であり城郭構造を詳細には反映していない。 宇陀松山城跡の史跡指定地は67,667㎡であり、そのうち総石垣づくりの中心郭部分22,450㎡の公有地化を実施している。整備範囲は公有地化を行った範囲を中心に城跡部分を対象とする。					
目標・実績	宇陀松山城跡の特徴として城割を受けていることが挙げられ、遺構内容・城割の状況と範囲・石垣等の崩落箇所の保全・修復等の関係を十分に検討しながら保存整備と城跡麓までの登城路整備を進めている。 平成29年10月の台風21号の豪雨により、城跡斜面が被災したため、平成29年度以降の城跡保存整備事業は一時中断することとした。					
教育自己評価委員会の	成果と課題					
	平成29年10月の台風21号による豪雨により城跡南面の斜面2箇所が大きく崩落した。また、史跡地内9箇所も法面が被災したため、城跡保存整備工事は一時中断し災害復旧事業を優先して進める。 登城路整備事業は完了したが、災害復旧工事用道路として当分の間は使用することとなる。					
	達成度	A	必要性	A	有効性	A
	評価理由		評価理由		評価理由	
	城跡麓までの登城路整備事業を完了することができたが、今後は災害復旧工事用道路として活用する。		宇陀松山城跡は、宇陀市のシンボルとして位置づけられており、重要伝統的建造物群保存地区に選定された松山地区の城下町と一体的に整備する。		松山重要伝統的建造物群保存地区と一体的に整備し、歴史資源として観光施策との連携を行い、より多くの集客を図っていくことができる。	

※達成度・必要性・有効性は右記から選択してください。「A」高い、「B」やや高い、「C」やや低い、「D」低い

点検の主な意見から	・宇陀松山城は、豊臣政権のもとで、大和郡山城・高取城と並ぶ大和支配の拠点として誕生したという観光拠点となりうる城跡である。平成29年10月の台風21号による豪雨により城跡南面の斜面が大きく崩落した。また、史跡地内も法面が被災したため、城跡保存整備工事は一時中断し災害復旧事業を優先して進められている。倒木の片付けや地権者との交渉など難題を抱えているが、観光客を呼び込める歴史資源として活用できるよう整備を進めていただきたい。 <div style="text-align: right;">点検評価支援員による総合評価 【 2 】</div>					
-----------	--	--	--	--	--	--

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

今後の方針	〈施策の課題や点検評価員の意見をふまえた方向性〉 平成29年10月の台風により大きく被災したため、災害復旧工事を優先的に実施している。宇陀松山城跡整備事業については災害復旧工事完了後に早期の整備を行い歴史資源としての活用を図る。 <div style="text-align: right;">事業の総合評価 【 2 】</div>					
-------	--	--	--	--	--	--

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

事業名	〈宇陀市教育大綱に基づく主な施策・事業〉 5 郷土を誇り郷土を愛する人材づくり ・史跡と文化財学習の推進、伝統文化の推進と継承 — 史跡森野旧薬園保護事業				所管課	文化財課	
事業の概要	享保14年(1729年)幕府から官園において栽培していた種苗が下付され、薬草等を植えたことにより薬園が始まる。大正15年には、国史跡に指定され史跡地内の桃岳庵や石水亭などの建造物も遺存し、古くから地域に自生していた有用植物が生育し、生態学的な価値も高く薬園としての旧態が良く保たれている。 しかし、近年は環境悪化が進み建造物は老朽化による傷みも著しく、また、獣害による植物の衰退、近縁種との交雑による種の消失等の荒廃が進行しつつある。江戸時代から引き継がれてきた当園の適切な保存・管理を行うため、保存活用計画に基づき保存事業を実施する。						
目標・実績	国史跡森野旧薬園が有する特徴や価値を良好な形で維持するために、旧薬園の沿革・既往調査資料・現地踏査による現状の把握、史跡指定範囲の敷地測量を実施。有識者による策定委員会を開催し、旧薬園がもつ本質的価値を明らかにした保存活用計画に沿った旧薬園の保存事業を実施する。 1749年に建立された桃岳庵改修工事を2カ年工事として事業実施した。						
教育自己評価委員会の	成果と課題						
	旧薬園の既往調査資料の整理、現地踏査により旧薬園の施設管理や薬草管理等の問題点が策定委員会で議論され、保存活用計画が策定されている。 適正管理は森野旧薬園だけではなく、行政や地域住民等がどのように関わり保存・管理を進められるかが今後の大きな課題である。						
	達成度	A		必要性	A		
評価理由	森野旧薬園保存活用計画に基づき、桃岳庵改修工事を発注した。		評価理由	旧薬園を良好な状態で維持するため保存活用計画に基づき、歴史的建造物等の計画的な保存修理が必要である。		評価理由	旧薬園は松山重伝建地区内に位置し、観光客が有料にて見学できる私立の施設であり、環境整備することにより観光スポットとしてさらに来園者が増えることが期待できる。

※達成度・必要性・有効性は右記から選択してください。「A」高い、「B」やや高い、「C」やや低い、「D」低い

点検の主な見	<ul style="list-style-type: none"> ・森野旧薬園保存活用計画に基づき、桃岳庵改修工事が終了し公開できるようになったので、観光スポットとしてさらに来園者が増えることが期待できる。しかし依然として薬園内にある歴史的建造物の多くは修理が必要であるという状態なので、所有者と協議しながら保存に向けて修理等を進めていただきたい。 ・有識者による策定委員会が開催され、江戸時代から引き継がれてきた旧薬園の適切な保存管理を行うため、保存活用計画に基づき事業が実施されている。来訪者も年間数千人規模であり、観光スポットとしても期待が大きく、事業の継続が望まれる。 					
	点検評価支援員による総合評価 【 2 】					

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

今後の方針	〈施策の課題や点検評価員の意見をふまえた方向性〉 森野旧薬園内には歴史的建造物が多数あり、桃岳庵改修に引き続いて賽覚祠堂(1798年建立)の改修もあることから、所有者と協議をしながら保存事業を進めていく。					
	事業の総合評価 【 2 】					

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

事業名	〈宇陀市教育大綱に基づく主な施策・事業〉 5 郷土を誇り郷土を愛する人材づくり ・史跡と文化財学習の推進、伝統文化の推進と継承 — 国県指定史跡災害復旧事業				所管課	文化財課
事業の概要	平成29年10月21日～23日の台風21号により、国指定史跡宇陀松山城跡では11箇所法面の崩落があり、その内2箇所については大規模な崩落により、山肌を大きく露出する被害が発生した。また、県指定史跡駒帰廃寺(伝安楽寺)跡においても、法面が崩落する災害が発生した。本市の貴重な歴史的遺産を守るため、災害復旧事業を行う。					
目標・実績	国指定史跡宇陀松山城跡の被害は大規模な崩落のため、復旧計画の概要設計を行い全体的な復旧計画書を作成した後、災害復旧工事の詳細設計を実施する。また、県指定史跡駒帰廃寺(伝安楽寺)跡の災害復旧は近隣住民と協議を行い、早期に災害復旧工事を実施する。 国指定史跡宇陀松山城跡は平成29年12月末に基本設計業務を発注し、航空レーザー計測による三次元計測データ作成が完了し、災害復旧工事基本設計まで完了した。また、県指定史跡駒帰廃寺(伝安楽寺)跡は災害復旧工事が完了した。					
教育委員会 自己評価 の	成果と課題					
	災害発生直後から、近隣土地所有者等への説明を行い災害復旧に向け了承を得ることができた。 国指定史跡宇陀松山城跡の災害復旧工事には工事用道路が必要になるため、用地交渉を早期に実施。また、県指定史跡駒帰廃寺(伝安楽寺)跡災害復旧工事では隣接する畑の耕作者の協力を得て工事が完了することが出来た。					
	達成度	A	必要性	A	有効性	A
	評価理由		評価理由		評価理由	
	災害発生後早期の対応により、災害復旧に向け、近隣土地所有者の協力も得られた。		本市の貴重な歴史的遺産を守るため災害復旧工事は必要である。		史跡の災害復旧は、歴史遺産を後世に伝える重要な業務である。	

※達成度・必要性・有効性は右記から選択してください。「A」高い、「B」やや高い、「C」やや低い、「D」低い

点検評価員からの 主な意見	<ul style="list-style-type: none"> ・史跡の災害復旧は、歴史遺産を後世に伝える重要な業務であるとして、所有者や関係機関と連携を図り、一日も早い復旧を望む。 ・宇陀市の貴重な歴史遺産を守るため、隣地地権者との調整や立ち木所有者との交渉、工事用道路の確保など年次計画に従って、着実に進める必要がある。 					
	点検評価支援員による総合評価 【 2 】					

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

今後の方針	〈施策の課題や点検評価員の意見をふまえた方向性〉 災害復旧工事の早期着手を目指し、工事用道路用地の地権者と交渉を実施しており、早期の合意を得られるよう交渉を進める。					
	事業の総合評価 【 2 】					

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

事業名	〈宇陀市教育大綱に基づく主な施策・事業〉 5 郷土を誇り郷土を愛する人材づくり ・自然保護と環境学習の推進 ー 国指定天然記念物等保護再生事業	所管課	文化財課
-----	--	-----	------

事業の概要	宇陀市内には多くの国指定天然記念物が存在し、これらを後世に伝えるためにも危機に瀕している天然記念物を保護し、再生を図る必要がある。 向淵スズラン群落は、自生地が南限地として国に指定されているが、環境の変化によりスズランが衰退傾向にある。また、特別天然記念物オオサンショウウオは、宇陀市室生の河川に生息していることが確認されたが、全国的に生態系が解明されていないことから、まず棲息状況確認とチュウゴクオオサンショウウオとの交雑化を確認、記録し、日本固有種の保護が急務となっている。大宇陀小附所在のカザグルマ自生地は、周辺樹木の成長とともに生育環境が悪化し消失が危惧されたため、平成9年から生育調査や保全対策を講じている。
-------	--

目標・実績	向淵スズラン群落は、天然記念物に指定された昭和5年頃は、自生地周辺は雑木林であったが、時代の変遷により、杉・檜の植林による日照不足や、下草刈りの減少等によりスズランが減少してしまった。平成8・9年の原因調査では約5,500株であったが、その後の保護活動として年2回の下草刈りの実施等により、平成23年では約36,000株まで回復することができた。オオサンショウウオは、現在、室生ダムより下流の室生川、大野川、深谷川等で生息が確認されている。平成24年度に三重県教育委員会・奈良県教育委員会が策定した「特別天然記念物オオサンショウウオ保護管理指針」に基づき平成27年度から本格的に生息調査を実施している。カザグルマは継続してモニタリング調査を実施している。
-------	---

教育委員会 自己評価	成果と課題 スズランは、これまでの観察と管理や地域住民への現地指導等も行い、平成28年度に鹿の食害により減少したが平成30年度では約46,000株の生育が確認できた。今後も定期的な管理や外来種であるドイツスズランの混在が確認されれば、その都度除去する必要がある。オオサンショウウオは、335個体が捕獲され、DNA鑑定により49個体の交雑種が確認されている。今後も生息調査等を継続し、日本固有種の保護を図る必要がある。カザグルマは、39個体群を確認しているが減少傾向にあり、今後も保護・増殖を図る必要がある。			
	達成度	A	必要性	A
	評価理由	天然記念物への保護調査及び対策により、日本固有種の保護ができた。	評価理由 外来種等は繁殖力も強く、日本固有種が減衰する要因ともなっている。調査等により外来種を排除することは、重要な措置である。	有効性
				評価理由 宇陀市内の各種天然記念物を保護することは、後世へ継承する重要な業務である。

※達成度・必要性・有効性は右記から選択してください。「A」高い、「B」やや高い、「C」やや低い、「D」低い

点検評価員の 主な意見	<ul style="list-style-type: none"> 植物や生物を絶滅から守るためには、日々の継続した地道な取組を続けるしかなく、自然環境が不安定な現在においては課題が山積していると考えられる。天然記念物を保護し後世に継承するべく対策を継続されたい。 子どもや市民向けの観察会など、啓発のための取組も重ねて実施されたい。 向淵スズラン群落は、時代の変遷により減少したが、その後の保護活動により、平成30年度には約46,000株まで回復している。オオサンショウウオは、335個体が捕獲され、学習会なども続けられている。カザグルマは減少傾向にある。日本固有の記念物であり、後世に継承できるよう保護対策を継続していかなければならない。 <p style="text-align: right;">点検評価支援員による総合評価 【 2 】</p>
----------------	--

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

今後の方針	〈施策の課題や点検評価員の意見をふまえた方向性〉 天然記念物の保護や再生には時間を要するため、今後も保護事業は継続的に実施し、後世に伝えるための観察会等も開催していく。
	事業の総合評価 【 2 】

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

事業名	〈宇陀市教育大綱に基づく主な施策・事業〉 5 郷土を誇り郷土を愛する人材づくり ・スポーツ等を通じた健康づくり「健幸都市ウェルネス」事業の推進 ー 小学校水泳教室事業			所管課	総合体育館								
事業の概要	市内の小学校2、3年生を対象に、水泳を通してスポーツの楽しさを知り、生涯にわたりスポーツに親しむことを目的として、夏休み2日間にわたり水泳専門講師によって授業を行う。												
目標・実績	水泳技能を学び、水泳の楽しさを知ることや基礎体力の向上、健康づくりの推進を図る。												
	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>平成29年度</th> <th>平成30年度</th> <th>増減率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>水泳教室生徒数</td> <td>135人</td> <td>131人</td> <td>97.0%</td> </tr> </tbody> </table>						平成29年度	平成30年度	増減率	水泳教室生徒数	135人	131人	97.0%
	平成29年度	平成30年度	増減率										
水泳教室生徒数	135人	131人	97.0%										
教育自己評価委員会の	成果と課題 ・小学校生活で低学年に、水泳等のスポーツに親むことなどで多くの経験を積むことが、その後の学校生活を豊かにする。 ・全学校の参加者を班編成して振り分けることで、受講時間が少なくなる。 ・スクールバスでの送迎に移動時間が多くかかる地域がある。												
	達成度	B	必要性	A	有効性	A							
	評価理由	対象生徒の約4割弱の子どもたちが参加している。		評価理由 夏休みの時期を利用して専門講師に学ぶことができる。	評価理由 水に慣れることができ、水泳技能や基礎体力等が身につく。								

※達成度・必要性・有効性は右記から選択してください。「A」高い、「B」やや高い、「C」やや低い、「D」低い

点検評価員の主な意見から	・残念なことに今年も全国で何人もが水難事故で命を落としている。泳げなかったということだけでは無いと思われるが、普段から水に馴染み、時には水の恐ろしさを知ることは大切なことである。一回でも多く水に慣れる機会として今後とも、さらに必要性を知らしめ、小学校に働きかけ参加者の増加に勤められたい。 ・専門講師による指導のもと、水泳技能を伸ばし、水泳の楽しさを知ることや基礎体力の向上、健康づくりを進めることを目的に継続して開催されており、ここ数年は130人以上の利用者が続いている。
	点検評価支援員による総合評価 【 2 】

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

今後の方針	〈施策の課題や点検評価員の意見をふまえた方向性〉 子ども達の水泳技能や基礎体力向上のために、今後も事業を推進し、参加者の増加に努める。
	事業の総合評価 【 2 】

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

事業名	〈宇陀市教育大綱に基づく主な施策・事業〉 5 郷土を誇り郷土を愛する人材づくり ・スポーツ等を通じた健康づくり「健幸都市ウェルネス」事業の推進 — 水泳教室事業			所管課	総合体育館
事業の概要	水泳教室を専門業者に業務委託し、一年を通して専門講師から能力に合わせた技能を習得する。 ①水泳教室(幼児コース、児童・生徒コース、成人コース) ②水中エアロビクス				
目標・実績	ジュニアにおいては水泳の基礎技能を学びスポーツの基礎体力をつける。また、成人は水に親しみ、水泳の楽しさを知ってもらいながら、健康増進を図る。				
		29年度	30年度	増減率	
	水泳教室生徒数	413 人	323 人	78.2%	
	水中ウォーキング生徒数	7 人	廃止		
	水中エアロビクス生徒数	16 人	10 人	62.5%	
	合計	436 人	333 人	76.4%	
教育自己評価委員会の	成果と課題				
	ジュニアオリンピック出場者や全国高校記録保持者を輩出し、水泳選手を育てる役割を果たしている。また、成人においては、水に親しみ、水泳の楽しさを知ってもらいながらの健康づくりに貢献した。				
	達成度	B	必要性	A	有効性
	評価理由		評価理由		評価理由
	前年度に比べ生徒数が減少した。水中ウォーキングが、生徒数減少により廃止となった。		市内で一年を通して気軽に子どもたちが水泳を学べる唯一の施設として受講生が多い。		技能に合わせてクラス選択でき、上級から選手コースまで気軽に学べ上達できる。

※達成度・必要性・有効性は右記から選択してください。「A」高い、「B」やや高い、「C」やや低い、「D」低い

点検の主な見から	<ul style="list-style-type: none"> ・膝への負担が軽減される中で、足腰が鍛えられる水中ウォーキングの有用性をさらに周知徹底し、高齢者の参加を促し、廃止となったクラスを復活させることを望む。 ・子どもたちが好きな活動に取り組み、技能を上げることによって、日常生活にも自信がついてくるというような結果も期待できる一つの活動場所として、さらに生徒が増えるよう働きかけていただきたい。 ・スポーツなどを通じた健康づくり事業の一環として、専門業者に業務委託して行われている。前年度に比べ生徒数が減少しているが、水中ウォーキングを廃止するなど見直しを実施している。市内で一年を通して気軽に子どもたちが水泳を学べる唯一の施設であり、継続が望ましいと考える。
	点検評価支援員による総合評価 【 2 】

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

今後の方針	<p>〈施策の課題や点検評価員の意見をふまえた方向性〉</p> <p>子どもたちの体力向上や選手育成、成人の健康づくりのために事業を推進し、より参加しやすい環境の整備や広報活動も併せて進める。</p> <p style="text-align: right;">事業の総合評価 【 2 】</p>
-------	--

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

事業名	〈宇陀市教育大綱に基づく主な施策・事業〉 5 郷土を誇り郷土を愛する人材づくり ・スポーツ等を通じた健康づくり「健幸都市ウェルネス」事業の推進 ー 宇陀市小学校対抗子ども駅伝大会事業				所管課	総合体育館
事業の概要	・長距離走を通して子どもたちの体力向上と健全育成を図るとともに、スポーツ全般に必要な基礎体力や連帯感を養い、豊かな人間性をつくる。 ・「宇陀市駅伝チャレンジ大会」において、小学校5、6年生の8名1チームとして市内各小学校より集まりタイムを競う。 ・各小学校5・6年生に希望者を募り、駅伝練習を3ヵ月間行った後、「奈良県市町村対抗子ども駅伝大会」に参加する。					
目標・実績	駅伝の楽しさを知り、学校の枠を越えて子どもたちの仲間意識や人を思いやる心を育てる。 ・宇陀市駅伝チャレンジ大会 参加:10チーム(80人) ・奈良県市町村対抗子ども駅伝大会 練習参加:12人 大会成績:16位(39チーム)					
教育自己評価委員会の	成果と課題					
	駅伝の楽しさを知り、基礎体力を高め、仲間の団結を生み、将来にわたるスポーツ振興を図った。					
	達成度	A	必要性	A	有効性	A
評価理由	チャレンジ大会においては、参加チームが減少。また市町村対抗駅伝大会においては、参加児童が練習会に熱心に参加し、体力の向上につながった。		評価理由 学校間を超えた仲間づくりができる。		評価理由 駅伝の楽しさを知り、仲間との連携を学ぶことが将来にわたるスポーツ振興と豊かな人間性を育むことにつながる。	

※達成度・必要性・有効性は右記から選択してください。「A」高い、「B」やや高い、「C」やや低い、「D」低い

点検の評価員から	・定着してきた子ども駅伝大会なので、小学校行事と重なることなく早めに計画を周知していただきたい。 ・さらに宇陀市だけでなく「奈良県市町村対抗子ども駅伝大会」にも積極的な参加を募り、子どもたちの視野を広げる機会として利用されるべきである。 ・長距離走を通して、子どもたちの基礎体力向上と連帯感や思いやりの心を育成することを目的に開催されている。「宇陀市駅伝チャレンジ大会」は、初回7チームであったが、一昨年は14チーム、昨年は10チームと参加が増え、応援の人も増えている。「奈良県市町村対抗子ども駅伝大会」にも希望者を募り、参加を重ねている。					
点検評価支援員による総合評価 【 2 】						

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

今後の方針	〈施策の課題や点検評価員の意見をふまえた方向性〉 駅伝という競技を通じて子どもたちの基礎体力の向上や仲間との連帯感を養い、子どもたちの健全育成の一環となるよう努めていく。					
事業の総合評価 【 2 】						

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

事業名	(宇陀市教育大綱に基づく主な施策・事業) 5 郷土を誇り郷土を愛する人材づくり ・スポーツ等を通じた健康づくり「健幸都市ウェルネス」事業の推進 ー 大人のための運動教室事業	所管課	総合体育館
-----	---	-----	-------

事業の概要	室内温水プール及び総合体育館内の施設を利用した継続型の運動教室の開催。
-------	-------------------------------------

目標・実績		29年度	30年度	増減率
	健康エクササイズ	14 人	12 人	85.7%
	エアロビクス	24 人	21 人	87.5%
	ピラティス	24 人	23 人	95.8%
	ヨガ	44 人	52 人	118.2%
	アクアビクス	18 人	18 人	100.0%
	膝腰改善	49 人	49 人	100.0%
	合計	173 人	175 人	101.2%

教育自己 委員会 の 評価	成果と課題					
	運動を始めたいと思っている人や、運動の必要性がある人が運動実践を体験でき、定期的に行うことで運動の習慣化につなげていける。					
	達成度	B		必要性	A	
	評価理由		評価理由		評価理由	
	健康のため何らかの運動をした と思っている人に運動を実践する 場を提供できた。		「ウェルネスシティ宇陀市」を掲げ、 市民の健康づくりを推進していくうえ でも、継続型の運動教室は必要で ある。		健康増進、体力維持、疾病予防 だけでなく、人とのコミュニケーション を深めながら、心身の健康づくりに 寄与できる。	

※達成度・必要性・有効性は右記から選択してください。「A」高い、「B」やや高い、「C」やや低い、「D」低い

点検 評価 員 の 主 な 意 見	<ul style="list-style-type: none"> 家を出て人と交わることがだんだん少なくなっていくと思われる高齢者が、近くで気軽に健康づくりを図りながら人とのコミュニケーションを図る場として運動教室が提供されている。体験教室などを踏まえて参加者が増えるように内容を周知することも有効ではないだろうか。利用者が固定されているように思える。 室内温水プールや総合体育館内の施設を利用して継続的に運動教室を開催しており、健康増進課とも連携して進めている。昨年度参加者が大幅に減少したアクアビクスも、横ばい状態にあり、今後も改善の工夫を重ね、続ける必要があると考える。
	点検評価支援員による総合評価 【 1 】

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

今後の方針	(施策の課題や点検評価員の意見をふまえた方向性) 心身の健康づくりに寄与できる継続型の運動教室として今後も事業を推進し、参加者の増加に努める。
	事業の総合評価 【 1 】

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

事業名	〈宇陀市教育大綱に基づく主な施策・事業〉 5 郷土を誇り郷土を愛する人材づくり ・スポーツ等を通じた健康づくり「健幸都市ウェルネス」事業の推進 — 宇陀シティマラソン事業	所管課	生涯学習課		
事業の概要	「走ろう宇陀！ふれあう心」をスローガンにファミリーの部から10kmの部まで市役所周辺を会場にマラソン大会を開催。 ※温泉手湯や食推元気汁のふるまい、宇陀市の特産物のPRなどをかねて大会を開催。				
目標・実績	宇陀の豊かな自然の中で、市民をはじめ参加する方々の健康の維持増進、健幸都市ウェルネスシティ宇陀市を目指し、お互いの交流と親睦を図るとともに、青少年の健全な育成を目指す。 平成30年度は1,707名参加いただき、約400名のボランティアスタッフの協力により、大会を成功させることができた。				
教育委員会 自己評価 の	成果と課題				
	本大会は、毎年恒例となっており、特に10kmの部において市内外からの申込者が多く、ホームページ上で大会運営に対する好評も得ている。 宇陀産品の展示・販売を大会と合わせて行っていただき、今後も工夫しながら運営していく。				
	達成度	A	必要性	A	有効性
評価理由	評価理由		評価理由		
定員を超える参加申し込みをいただきとともに、約400名のボランティアスタッフの協力による市民協働のマラソン大会となっている。	宇陀市開催のスポーツイベントとしては最大規模であるとともに、健幸都市ウェルネスシティ宇陀市構想の一翼を担っている。		誰もが参加しやすい距離設定で健康保持増進が図れ、市外からの参加も多く、宇陀市のPRにつながっている。		

※達成度・必要性・有効性は右記から選択してください。「A」高い、「B」やや高い、「C」やや低い、「D」低い

点検の 評価 員 意見 から	<ul style="list-style-type: none"> ・宇陀市で行われるマラソン大会として定着している。ボランティアスタッフの協力もあり、大きな事故もなく続けてこられたので、今後とも宇陀市をPRするいい機会として継続されたい。市内の子どもたちの積極的な参加を期待する。 ・緑に囲まれた豊かな自然の中で、12回目の大会が開催された。参加者は、1,700人を越え、宇陀市開催のスポーツイベントとしては最大規模である。400人のボランティアの協力による市民協働の大会で温泉の足湯手湯や食推委員による元気汁のふるまい、地元特産物のPRなどを兼ねて開催されている。継続することが望ましいと考える。 	点検評価支援員による総合評価 【 2 】
----------------------------	---	----------------------

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

今後の 方針	〈施策の課題や点検評価員の意見をふまえた方向性〉 <ul style="list-style-type: none"> ・市外の方も多く参加される宇陀シティマラソンは、宇陀市をPRするいい機会であり、今後も充実した大会運営を図っていきたい。 ・ボランティアスタッフの確保に年々苦慮しているため、ボランティアスタッフ確保のための施策及び運営形態の見直しを図ることが必要と思われる。市民主体で開催できるよう、方向性を実行委員会と共に検討していきたい。 	事業の総合評価 【 2 】
-----------	--	---------------

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

事業名	〈宇陀市教育大綱に基づく主な施策・事業〉 5 郷土を誇り郷土を愛する人材づくり ・スポーツ等を通じた健康づくり「健幸都市ウェルネス」事業の推進 ー 市民スポーツ大会事業				所管課	生涯学習課
事業の概要	広く市民にスポーツ活動を行う機会を提供し、心の健康、体力の増進と競技力の向上を目指すもので、21種の競技を実施した。					
目標・実績	広く市民にスポーツ活動を行う機会を提供し、心身の健康、体力の増強と競技力の向上を目指し、生涯を通じたスポーツ活動の振興を図る。					
教育自己 委員会 の 評価	成果と課題 21競技団体により各種目において大会が実施された。 人口減少に伴い競技人口は減少傾向にあるが、一人でも多くの市民がスポーツ活動が行なえる環境整備が課題である。					
	達成度	A	必要性	A	有効性	A
	評価理由	今後も多くの市民が、継続して、毎年楽しみながら参加していただけるような大会運営ができるよう体育協会を通じて啓発していきたい。		評価理由	参加者は、21種類の競技から自分に合った競技種目を選択し、1,000人を超える市民に参加していただいている。健康増進にたいへん効果的である。	
	健康の保持増進、体力の向上、余暇の充実といった精神面の健康増進、集団で参加する場合の社会性の育成も図ることができる。					

※達成度・必要性・有効性は右記から選択してください。「A」高い、「B」やや高い、「C」やや低い、「D」低い

点検 評価 員 から の 主 な 意 見	<ul style="list-style-type: none"> ・人口減少に伴い競技人口は減少傾向にあるが、一人でも多くの市民がスポーツ活動が行なえる環境整備が課題となっている。体育協会や競技団体に補助金を出すだけでなく、広く市民が参加しやすい体制づくりを共に考えていただきたい。 ・バトミントンや卓球、バレーボール、ソフトボールなど多岐に渡り、心身の健康、体力の向上、余暇の充実などを図るため行われている。競技が1種目減ったが、1,000人を越える参加者があり、継続が望ましいと考える。 					
	点検評価支援員による総合評価 【 2 】					

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

今後 の方 針	〈施策の課題や点検評価員の意見をふまえた方向性〉 ・市民スポーツ大会については、体育協会の各専門部が自主的に大会を運営しているが、今後もスポーツ活動が活発におこなえる環境整備を図っていきたいと考える。 ・体育協会に対しては、市から補助金を交付しているが、今後は、事務局の役割を含め、完全自主運営ができるよう促していくことが課題である。体育協会が完全自主運営ができるように環境を整えていきたい。					
	事業の総合評価 【 2 】					

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

事業名	〈宇陀市教育大綱に基づく主な施策・事業〉 5 郷土を誇り郷土を愛する人材づくり ・スポーツ等を通じた健康づくり「健幸都市ウェルネス」事業の推進 — 近畿高等学校自転車競技大会・ロードレースの部			所管課	生涯学習課	
事業の概要	近畿高等学校総合体育大会の近畿大会として自転車競技大会(ロードレースの部)を宇陀市農林会館をスタートゴールとする周回コースにより大会を開催。					
目標・実績	高校総体自転車ロードレースを誘致することにより、市民の競技スポーツへの関心を高め全国レベルで活躍する地元高校の自転車競技部の活躍を通じて自転車競技のPRを行うとともに、スポーツツーリズムによる宇陀市への来訪者を増やすことは、市の活性化にもつながるものとする。 愛好家が増えてきた自転車を使った健康づくりや競技として、宇陀市内で積極的な活動ができるように施策として実施していく。					
教育自己評価委員会の	成果と課題					
	平成30年6月3日(日)、宇陀市農林会館周辺特設コースにおいて、32校、男子119名の選手が参加し、観戦者約500人、競技役員・ボランティアは約200人の内容で熱戦が繰り広げられた。 競技の間、交通規制を実施するための周辺住民への周知、誘導員の配置などに課題が残った。					
	達成度	A	必要性	A	有効性	A
	評価理由 宇陀市において4回目の開催となり、ボランティアスタッフ、観戦者も多く参加いただき、成功に終わることができた。		評価理由 スポーツによる地域興しや、活性化を図ることや、高校生が日頃の修練を発揮する場として、今後も継続して実施していく。		評価理由 高校生が積極的に活動できる大会で、次代を担う青少年の育成に有効な事業である。	

※達成度・必要性・有効性は右記から選択してください。「A」高い、「B」やや高い、「C」やや低い、「D」低い

点検評価員からの主な意見	<ul style="list-style-type: none"> ・高校総体自転車ロードレースを誘致することにより、市民の競技スポーツへの関心を高めることができていると思われるが、スポーツツーリズムでの宇陀市への来訪者の増加は、市の活性化に繋がっているのかどうかは検証する必要がある。 ・スピードを伴う公道での競技であるので、内容の周知を図り、事故がないように安全対策を充実させていただきたい。 ・高等学校体育連盟と自転車競技連盟が主体となって、開催されている。市内にある榛生昇陽高校が自転車競技で実績を積み重ねており、高校総体自転車ロードレースを誘致することで市民の競技スポーツへの関心を高め、自転車競技のPR、スポーツツーリズムの振興につながるものとして実施されている。スポーツによる地域おこしや次代を担う青少年の育成につながる事業であり、継続していくことが望ましいと考える。 	点検評価支援員による総合評価 【 2 】
--------------	---	----------------------

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

今後の方針	<p>〈施策の課題や点検評価員の意見をふまえた方向性〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・奈良県高等学校自転車競技連盟が主催する本事業を大会開催地として会場提供をはじめ、一部運営に協力し、また、積極的に市民に啓発を行い、自転車競技への理解と関心を深めることができるよう努めていきたい。 ・この大会に参加している市外の高等学校の選手が、「宇陀市をまた自転車で走りたい」と思えるよう、環境整備を図っていきたい。 	事業の総合評価 【 2 】
-------	--	---------------

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

5 まとめ

宇陀市では、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の改正を踏まえ、平成 28 年 3 月に「宇陀市教育大綱」を策定しました。

この大綱は、総合教育会議において、宇陀市の素晴らしい自然環境、地域の教育力、伝統文化を活かした教育について議論を重ね、その目指すべき教育をまとめたものです。

大綱では、4 つの基本目標及びこれを推進するための 5 つの基本方針を設定し、方針に沿った事業に日々取り組んでおります。

さて、平成 30 年度は教育大綱に沿った事業の 3 年目となりました。今年度も宇陀市教育委員会では、教育行政のさらなる充実を図るとともに、市民への説明責任を果たすことを目的として、ここに「教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価の結果に関する報告書」（平成 30 年度施策・実施事業分）をまとめました。平成 30 年度に執行した教育委員会の主な事務事業を宇陀市教育大綱に基づく基本方針の項目ごとに分類し、目標の達成状況・進捗状況について教育行政点検評価支援員の意見を踏まえながら点検・評価し、とりまとめた本報告書については、市議会に提出いたします。

宇陀市においては、子どもたちの学力・学習意欲の向上や家庭・地域の教育力の向上など宇陀市の将来を担う子どもたちに関する課題や、生涯学習を推進するための環境整備や伝統文化の推進・伝承等の地域社会に関する課題などに取り組んでいく必要があります。

今後の宇陀市教育委員会の方向性として、宇陀市教育大綱にある『子どもたちの「生きる力」と「夢」を育むために、自己の可能性を追求し、住みよい地域社会の一員としての役割を果たし、お互いを尊重しあえる豊かな人間性を育む』事業の展開に引き続きまい進してまいります。

【参考】

4 つの基本目標

- ・「確かな学力・豊かな人間性・健やかな心身」を基本に、自己実現のために真摯に研鑽する教育をめざします。
- ・誰もが楽しく学べるために、教育環境の中長期的な展望を描きつつ、社会全体で子育てや家庭の教育力を高めることをめざします。
- ・社会の一員として義務と責任を果たし、自他の尊厳を尊重し、地域社会の発展に寄与する人間づくりをめざします。
- ・郷土の歴史や伝統文化に親しみ、地域産業の振興を通して、持続可能な社会づくりのための人材育成をめざします。

5 つの基本方針

- | | |
|--------------------|---------------|
| 1 確かな学力・規範意識・体力の向上 | 2 夢を育む教育環境づくり |
| 3 地域全体で子育てを | 4 人権文化の創造 |
| 5 郷土を誇り郷土を愛する人材づくり | |